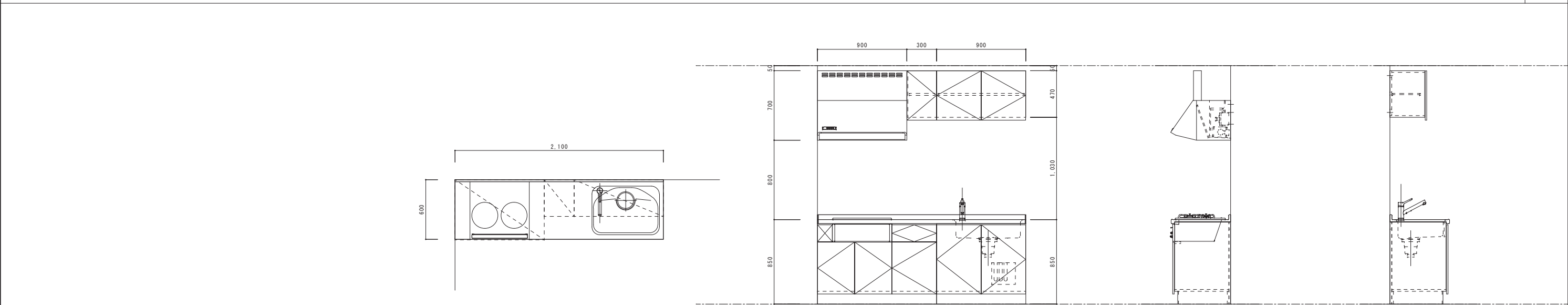
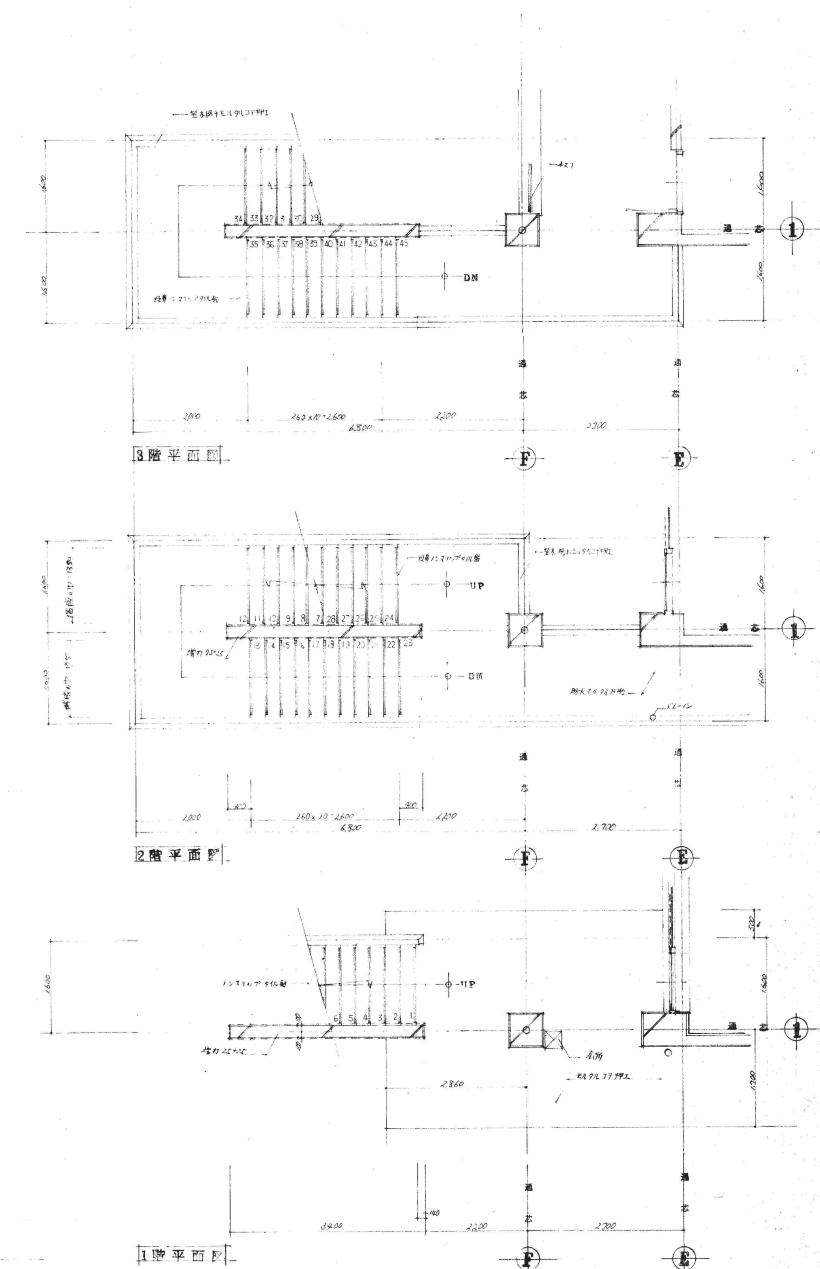


	品 名	数	備 考
1	S U S ー 体 キ ャ ビ	1	引出しなし
2	据置IHヒーター	1	2口IH
3	電気温水器12Lセット	1	電気温水器本体・排水セット・補強板
4	シンク	1	水栓穴あり
5	シングルレバー水栓	1	エコハンドル・一般地用
6	吊戸棚・側面不燃	1	開き扉
7	天井フィラー	2	扉カラー対応
8	フィルター付止水栓	1	床給水用
特記事項			
●レンジフード電源プラグ仕様：3芯電源プラグ			
●色柄、シンクの左右勝手などは、施工前に監督員・監理者の承諾の上、最終決定とする。			

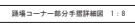
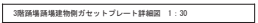
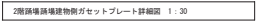
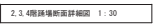
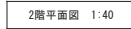
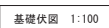
	品 名	数	備 考
1	S U S ー 体 キ ャ ビ	1	引出しなし
2	電気温水器12Lセット	1	電気温水器本体・排水セット・補強板
3	シンク	1	水栓穴あり
4	シングルレバー水栓	1	エコハンドル・一般地用
5	吊戸棚・側面不燃	1	開き扉
6	天井フィラー	2	扉カラー対応
7	フィルター付止水栓	1	床給水用
特記事項			
●色柄、シンクの左右勝手などは、施工前に監督員・監理者の承諾の上、最終決定とする。			



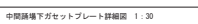
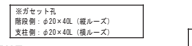
	品 名	数	備 考
1	S U S ー 体 キ ャ ビ	1	引出しなし
2	据置IHヒーター	1	2口IH
3	電気温水器12Lセット	1	電気温水器本体・排水セット・補強板
4	シンク	1	水栓穴あり
5	シングルレバー水栓	1	エコハンドル・一般地用
6	吊戸棚	1	開き扉
7	吊戸棚	1	開き扉
8	天井フィラー	2	扉カラー対応
9	フィルター付止水栓	1	床給水用
特記事項			
●レンジフード電源プラグ仕様：3芯電源プラグ			
●色柄、シンクの左右勝手などは、施工前に監督員・監理者の承諾の上、最終決定とする。			



◆SHEET No◆



1F階段詳細図 1:30



基礎伏図 1:100

特記事項	
基礎柱はFCIとする。	
地耐力	(長期) 200 kN/m ²
	(短期) 400 kN/m ²

PH階梁伏図 1:100

3階梁伏図 1:100

2階梁伏図 1:100

A·B通軸組圖 1:100

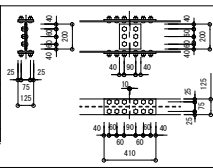
1 通軸組圖 1:100

2 通軸組圖 1:100

通軸組圖 1:100

継手リスト 1:30

断面寸法		H250×125×6×9	
符号		G1.2	
接合部	H.T.B	添板	
		t×w×l	数量
フランジ	24-M16	12×125×410	2
ウェブ	6-M16	6×200×170	2



柱脚リスト 1:30

符 号	C1柱脚	ささら桁柱脚
部 材	□-200x200x9	PL-12×250
断 面		
Base. PL	PL-28x380x380 (SN400B)	PL-12x300x120 (SS400)
A. bolt	4-M22 (L=550) (SN400B)	2-M16 (L=300) (SS400)
	定着板 PL-16x80 φ (SS400)	

鉄骨部材リスト

符 号	部 材	接 合 部
1~PHC1	□=200x200x9	Base PL: PL-28 x 390 x 380 A Bolt: 4-M22 (L=550)
PI	H-125x125x8, 5x9	
GI, 2	H-250x125x6x9	フランジ: PL-12 HTB 24-M16 ウェブ: 2PL-6 HTB 6-M16
CGI	H-250x125x6x9	フランジ: 実合せ溶接 ウェブ: すみ肉溶接
ささら桁	PL-12 x 250	GPL-12 HTB 2-M16 GPL-12 A Bolt 2x2-M16 L=300
CPL受付(一部)	C-100x50x20x2, 3	梁に溶接
CPL受付(先端)	L=50x50x6	溶接
B1	H-250x125x6x9	GPL-9 HTB 3-M16
B1A	H-250x125x6x9	フランジ: PL-12 HTB 24-M16 ウェブ: 2PL-6 HTB 6-M16
VI	[-125x65x6x8	GPL-9 HTB 2-M16

種類、材質

施 工 箇 所	種 類	材 質	備 考
基礎・地中梁	普通コンクリート	Fc21	
D10～D16	鉄 筋	SD295A	
D19～D25	鉄 筋	SD345	
柱	角型鋼管	STKR400	
柱通しダイヤフラム	鋼 板	SN490C	
柱ベースプレート	鋼 板	SN400B	
CPL受け(一部)	軽量溝型鋼	SS400	梁上部
上記以外	型鋼・鋼板	SS400	
柱梁接合部	高力ボルト	F8T	
柱アンカーボルト	鋼 材	SN400B	
ささら桁アンカーボルト	鋼 材	SS400	

地中梁リスト 1:30

主筋のX Y方向の上下関係はどちらでも可とする

特 号	F61
断 面	
寸 法	250x600
上端筋	3-Ø22
下端筋	3-Ø22
S . T	Ø10-Ø200
腹 筋	2-Ø10
巾止筋	Ø10-Ø1,000

基礎リスト 1:30

基礎リスト 1:30

基礎柱リスト 1:30

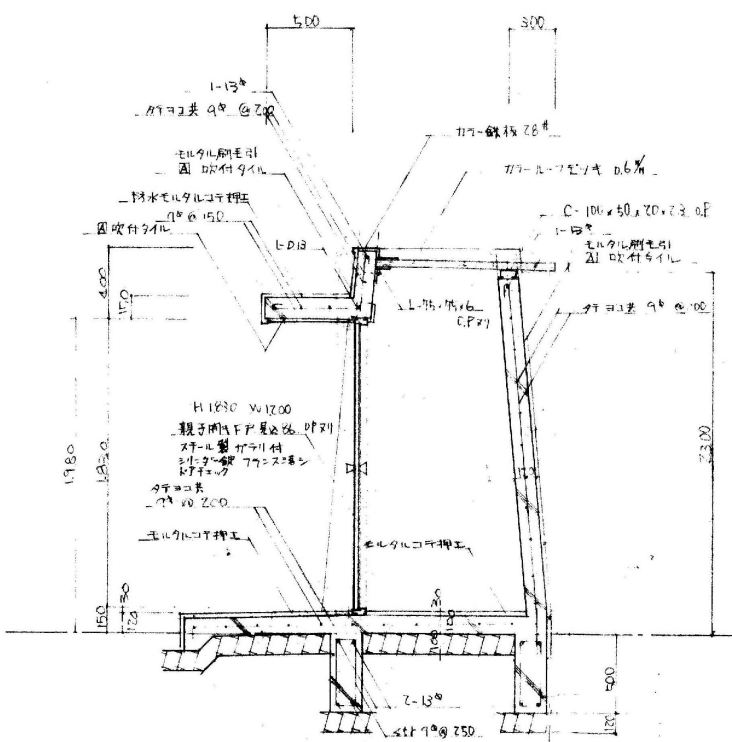
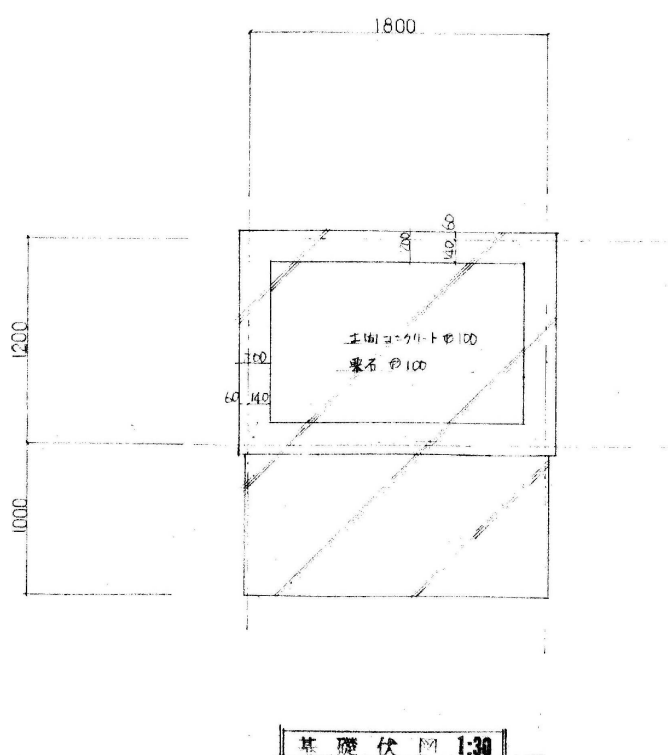
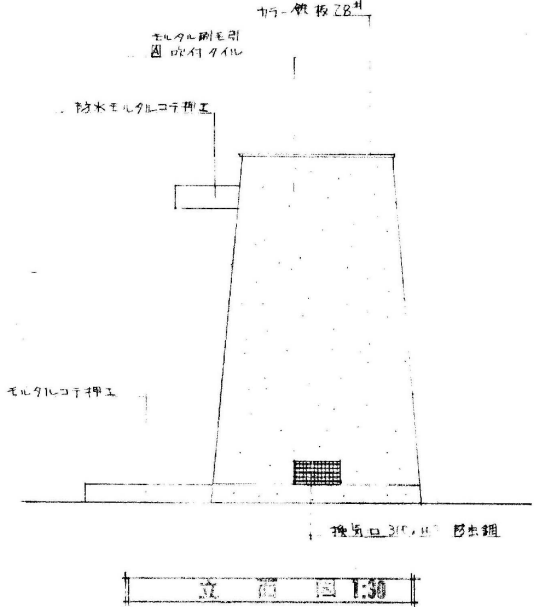
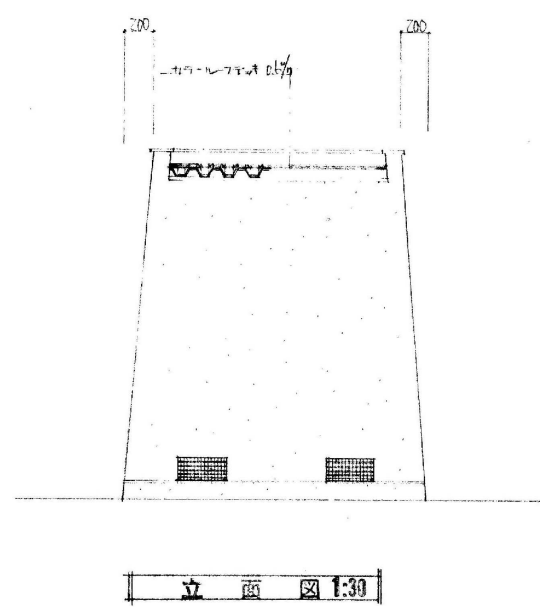
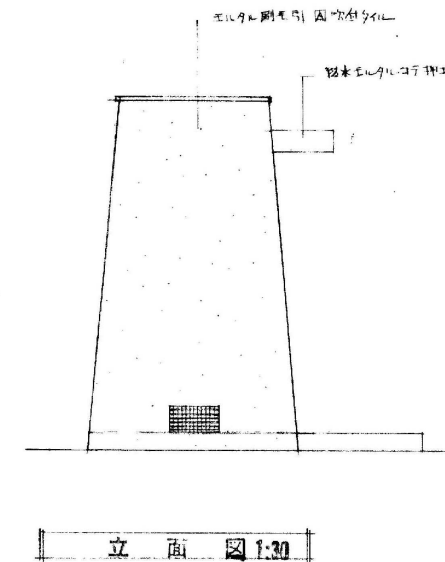
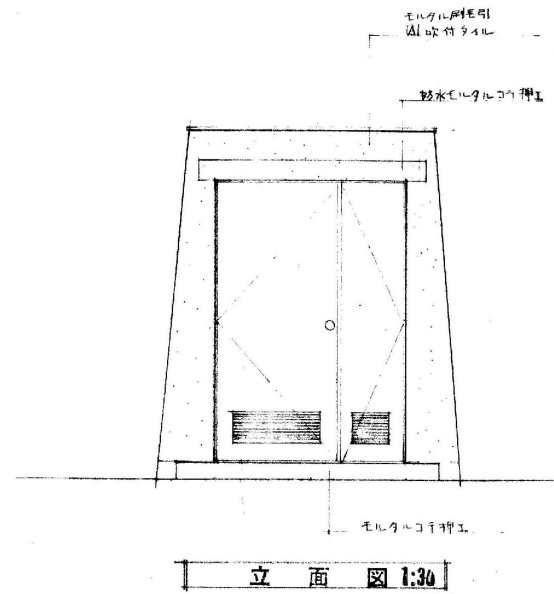
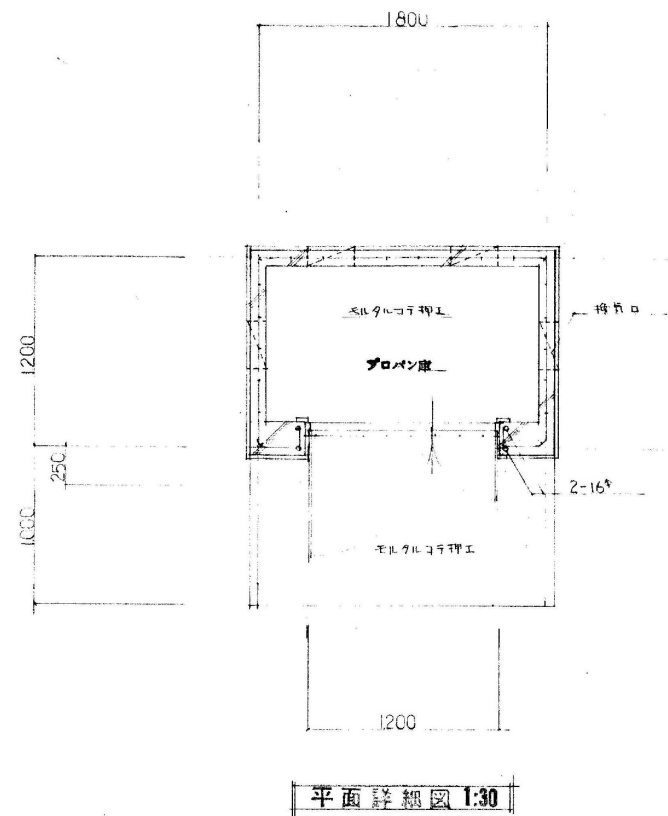
主筋 8-D22
H. P D10-@200

1 通架構詳細圖	1:30
----------	------

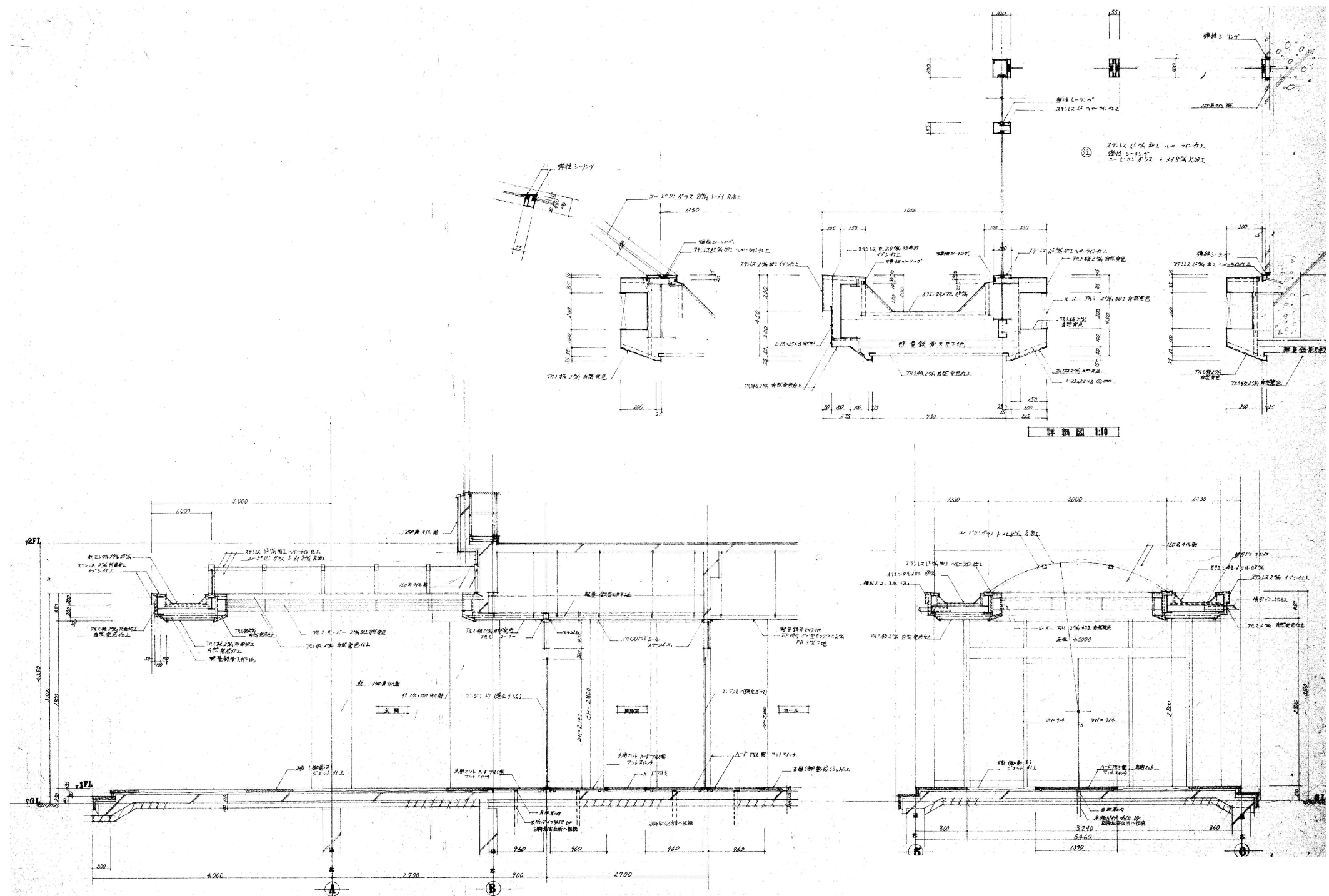
A 通架構詳細圖 1:30

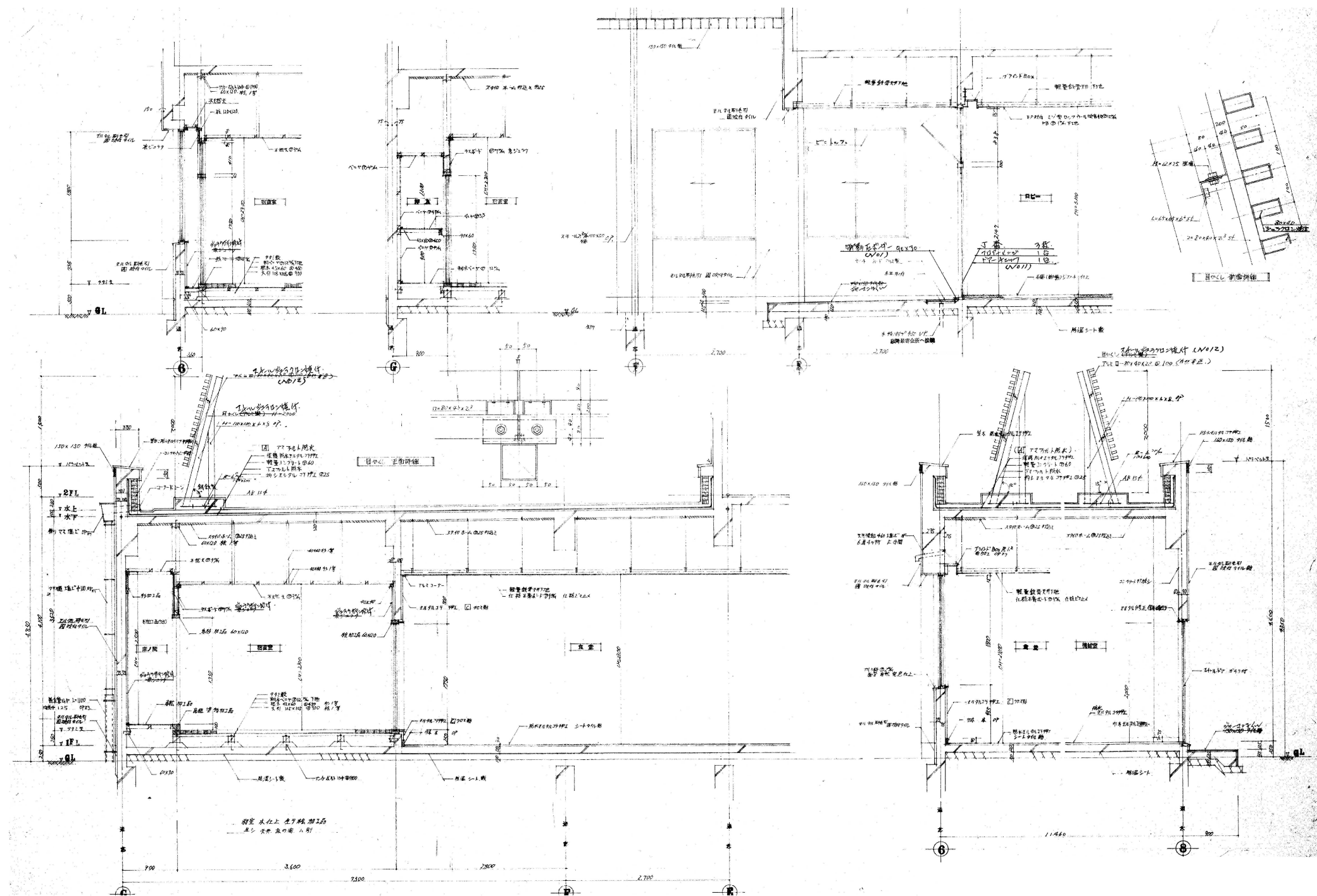
Ⓐ - Ⓐ 詳細図 1:30

			- - -	
DATE	- - -		- - -	
CHECK	- - -		- - -	
DATE	- - -		- - -	



プロパン庫 全て撤去処分(基礎共)

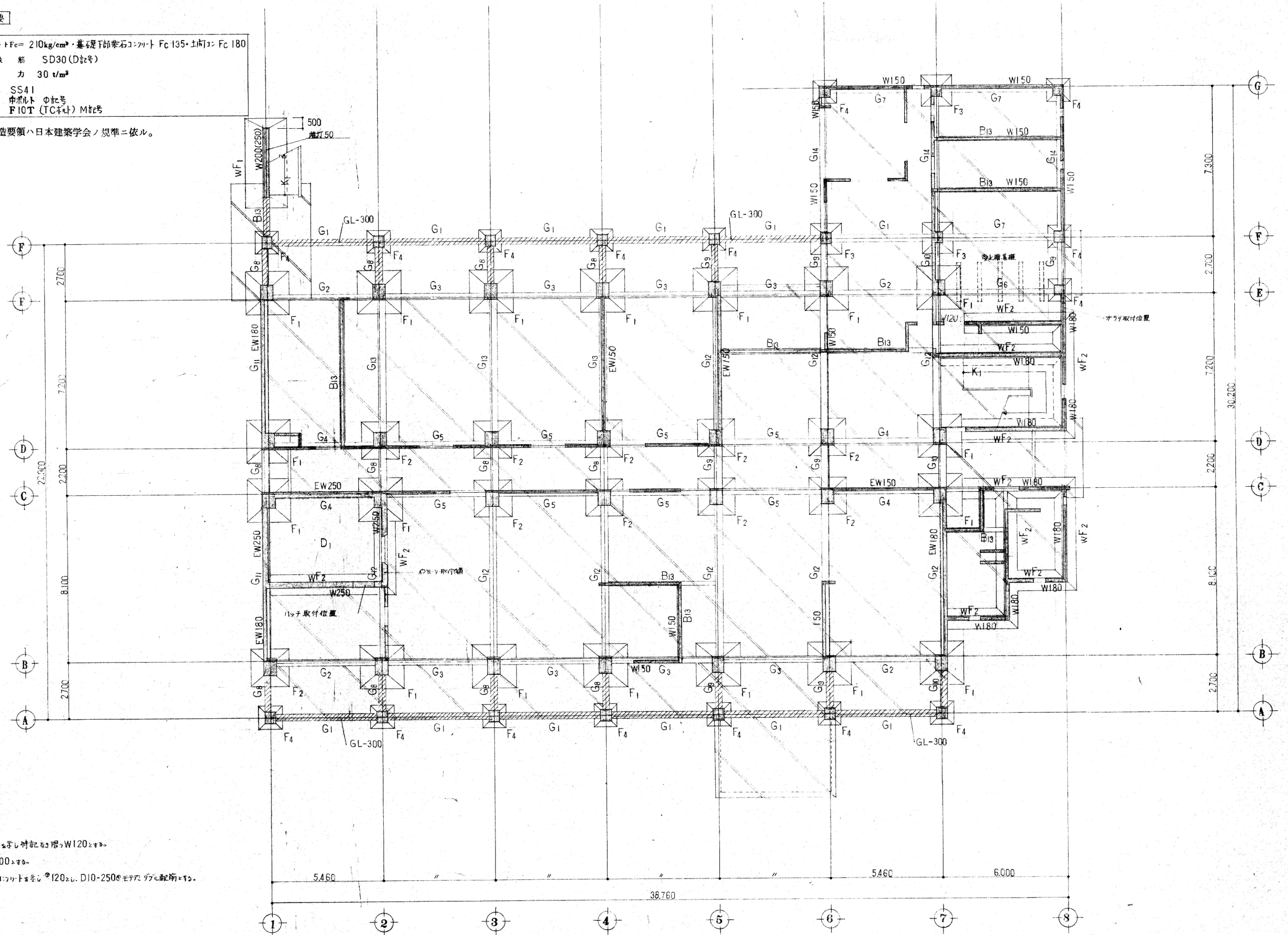




構造概要

使用コンクリート $F_c = 210 \text{ kg/cm}^2$ ・基礎下部素コンクリート $F_c 135$ ・土間コン $F_c 180$
使用鉄筋 SD30 (D記号)
地耐力 30 t/m^2
鋼材 SS41
アンカーボルト 中ボルト 中記号
H.T.B F10T (TCボルト) M記号

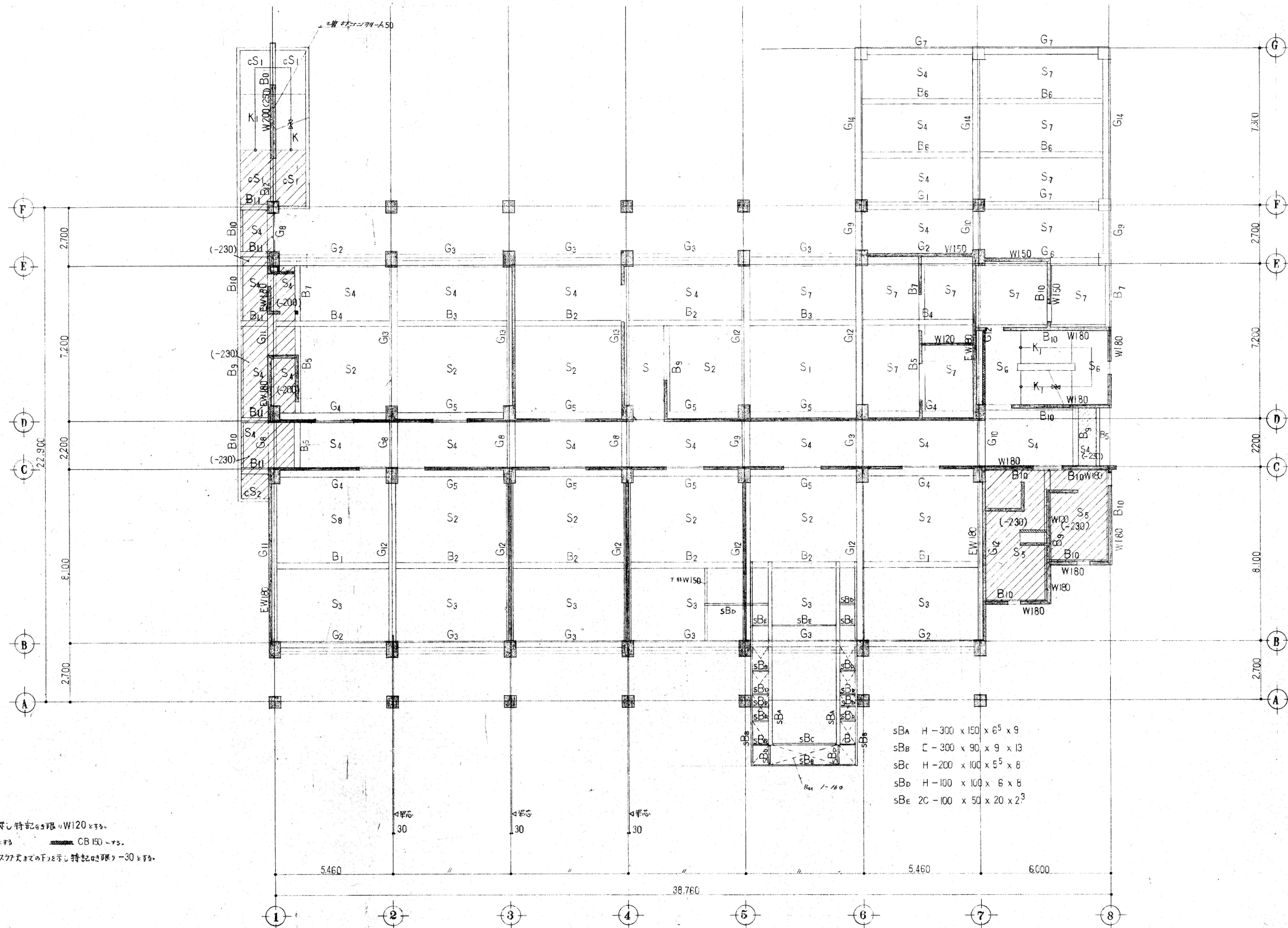
特記ナキ構造要領ハ日本建築学会ノ規準ニ依ル。



特記事項

- は太く盛出し特記を要しW120とする。
- はCB100とする。
- は上向コンクリート表示し $\phi 120$ とし、D10-250 ϕ モデルで配筋とする。

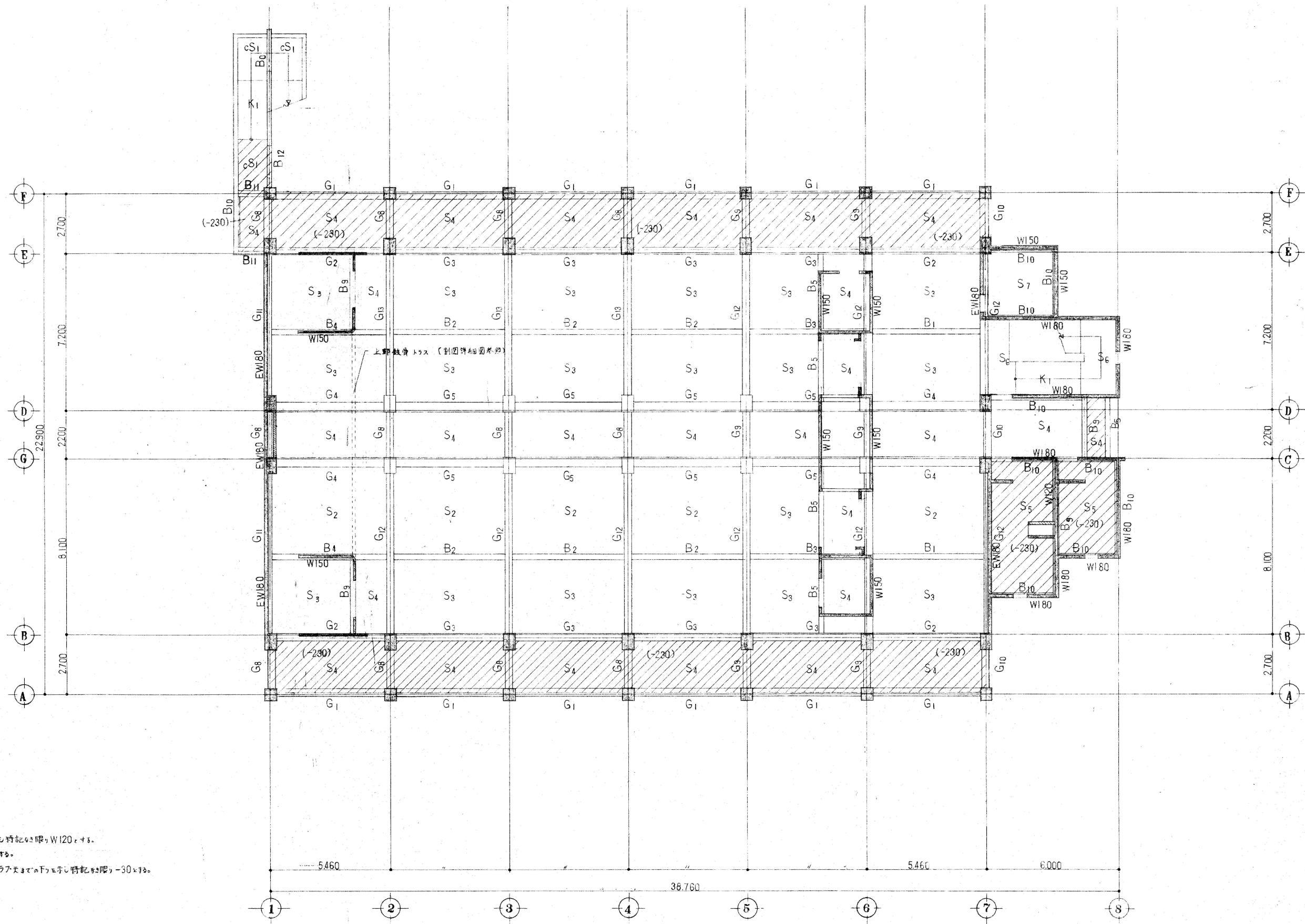
基礎伏図 1:100



特記事項

- はRC壁を厚し特記なし限りW120とする。
- はCB100とする。CB150とする。
- ()内はFLからスラブまでのFを示し特記なし限り-30とする。

2階床梁伏図 1:100



特記事項

- ・はRCCコンクリート特記45mm W120とする。
- ・はCB100とする。
- ・()内はFLからスラブまでの下向き特記45mm W120とする。

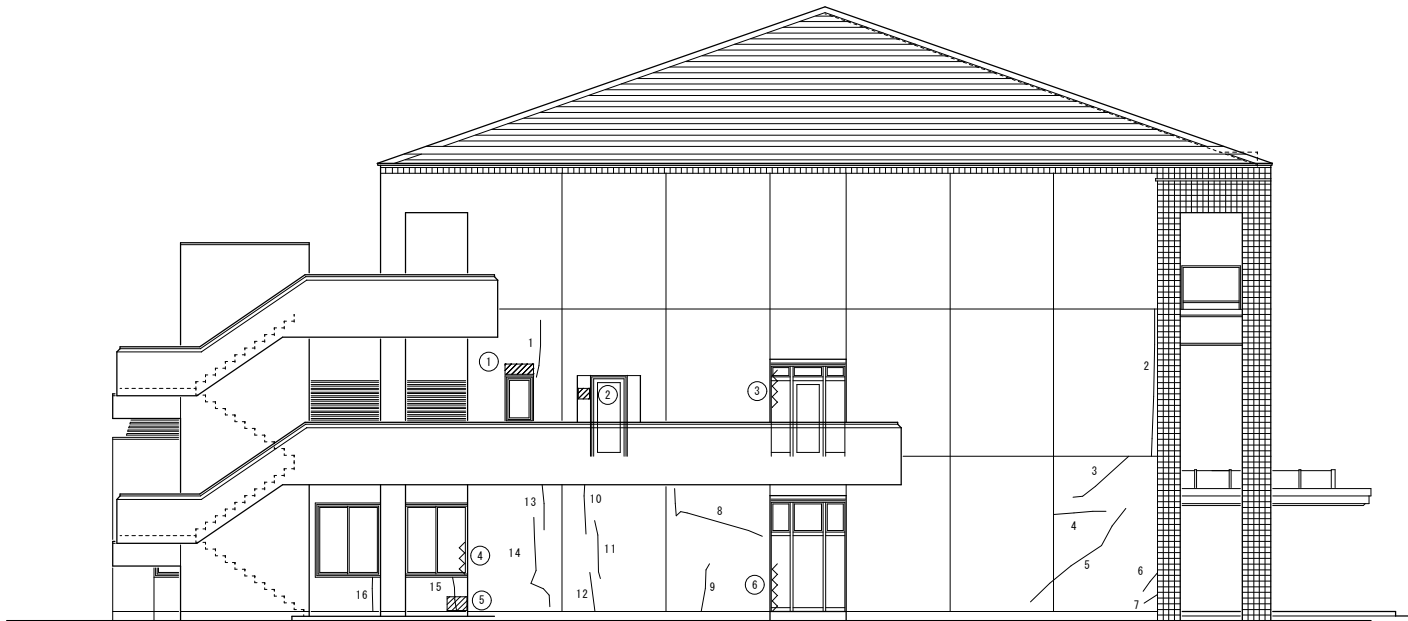
3階床梁伏図 1:100



南立面図 1/100

(外部)調査項目別	実数量	(外部)調査項目別	想定数量(30%割増)
クラック部	90.0m	クラック部	117.0m
モルタル浮き部	2.9㎡	モルタル浮き部	3.8㎡
欠損部	2箇所	欠損部	3箇所
		外壁補修部：アスベスト除去(ウェットサンダー工法)	
		30.0㎡	

特記事項
・外壁補修工事は、次による ひび割れ 0.2mm未満 : 補修なし(下地調整O-2による) ひび割れ 0.2mm以上1.0mm以下 : 樹脂注入工法 ひび割れ 1.0mm以上 : 樹脂注入工法 露筋・欠損・腐蝕部 : エポキシ樹脂モルタル充填工法 モルタル浮き部 : アンカーピンニング部分注入工法
・外壁石綿除去工事は、上記補修箇所に関わる部分除去30㎡を見込むこと
・目地シーリング 撤去・打ち替え
・タイル撤去後の下地調整(CM-2)について、塗付厚・平滑具合等について、試験施工を行い、監督職員の承諾を得ること。



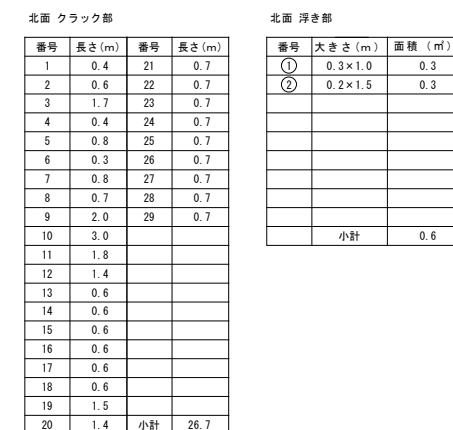
西立面図 1/100

西面 クラック部

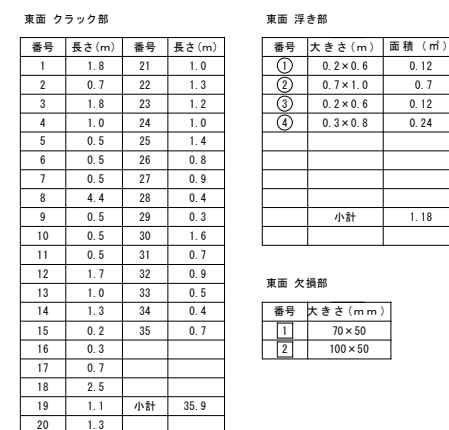
番号	長さ(m)
1	1.5
2	3.9
3	1.9
4	1.4
5	3.6
6	0.6
7	0.4
8	3.2
9	1.3
10	1.3
11	1.5
12	1.1
13	1.2
14	2.7
15	0.9
16	0.9
小計	27.4

西面 モルタル浮き部

番号	大きさ(m)	面積(㎡)
①	0.3×0.8	0.24
②	0.3×0.3	0.09
③	0.2×1.0	0.2
④	0.2×0.8	0.16
⑤	0.5×0.4	0.2
⑥	0.2×1.3	0.26
小計		1.15



北立面图 1/100



東立面圖 1/100

構造特記仕様書

2024年度版

§1 一般事項

選択項目は○印を適用し、●印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格適合品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の優先順位は下記による。
①本特記仕様書
②設計図
③標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

○鉄骨工作標準図

●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

●高強度せん断補強筋施工仕様書

●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

④仕様書

(●公共建築協会 ※日本建築家協会)

⑤日本建築学会標準仕様書

JASS5 2018年、JASS6 2018年

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に(●含む ●含まない)

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ●構造図 ※設備図)による。

1-7

その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	○ルート1(便所・倉庫棟) ●ルート2 ○ルート3(EV棟) ●
Y	○ルート1(便所・倉庫棟) ●ルート2 ○ルート3(EV棟) ●

2-2

鉄筋の継手(定着については設計図若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
●建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
●日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
●日本建築学会 RC標準2018
XY両方向共にルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2018とすることができる。

§3 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り

3-2


埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ●根切り土の中の良土 ●搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ●根切り土の中の良土 ●搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 ●場内均地し ※場外搬出処分○自由 ●指定場所)

§4 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場 所	捨てコンクリート厚さ	注1) A：砕石 B：割栗石	厚 さ
基 礎	独立、布	○50・60・100	○A・B ※60○100・150 ●
	ベ タ	○50・60・100	○A・B ※60・100○150 ●
基 礎 梁	○50・60・100	○A・B	※60・100○150 ●
土間スラブ	※50・60・100	※A・B	※60・100・150 ●
土間コン クリート	屋内	○50・60・100	○A・B ※60○100・150 ●
	屋外	○50・60・100	○A・B ●60○100・150 ●

注1)、アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2)、端部aは100以上とする。


4-2

設計地耐力 長期 150 kN/m² 短期 300 kN/m² 終局 kN/m²
地耐力載荷試験 ○行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※行わない

4-3

地盤改良
○無筋コンクリート地業(便所・倉庫棟) ●締固め工法 ●ソイルセメント杭
●セメント系固化工材攪拌 ●圧密排水工法
[●載荷試験 ●一軸圧縮試験] ●行う (箇所) ●行わない
[●六価クロム溶出試験] ●行う ●行わない

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
●PHC杭 ●A種 ●B種 ●C種 ●
●ST杭 ●A種 ●B種 ●C種 ●
●SC杭 t mm ● ● ● ●
●PRC杭 ●I種 ●II種 ●III種 ●IV種
●節杭 ●A種 ●B種 ●C種 ●
●鋼管杭
2)工法
●打撃工法 ●油圧ハンマー ●ディーゼルハンマー
●埋込み工法 ●プレボーリングセメントミルク注入工法
●プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定法 ※あり ●なし
中掘拡大根固め工法(認定工法)
回転埋設根固め工法(認定工法)
回転杭工法
先行掘削 ※あり ●なし

3)杭径、設計耐力、本数表

杭径(括弧部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()					
()					
()					
()					

4)杭の構成は設計図による。
5)杭頭補強
●かご筋 ●スタッド溶接 ●杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
1)工法
●アースドリル工法 ●拡張アースドリル工法
●リバース工法 ●オールケーシング工法 (●ベノト工法 ●)
●BH工法
2)杭径、設計耐力、本数表(括弧部は施工径を示す)

杭径(括弧部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()						
()						
()						
()						
()						

3)杭先端深さ ●GL- m ●杭リストによる ●杭状による
4)孔壁測定 (2方向)
※行う (●全数 ●%) ●行わない
5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (●普通ポルトランドセメント ●高炉セメントB種)
鉄筋 ●D 以下 SD295 ●D 以上 SD345
●D 以上 SD390
鋼管(リブ付) ●SKK400 ●SKK490
4-6 杭打地業共通事項
1)[●試験杭 ●試験掘] ●行う(本) ●行わない
2)載荷試験 ●行う(箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※行わない
3)SL塗布 ●行う ※行わない

§5 鉄筋工事

5-1

材 種

種 類	径	継 手
○SD295	D 16 以下	●重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接
○SD345	D 19 以上	●重ね継手 ●ガス圧接 ●溶接継手
●SD390	D 29 以上	※ガス圧接 ●溶接継手 ●機械継手(級)
●SD490	D 以上	●ガス圧接 ※溶接継手 ●機械継手(級)
●溶接金鋼		●重ね継手
●高強度せん断補強筋	●1275級 P ●フック加工 ●スパイラル ●工場溶接 ●785級 K ●685級 U	

5-2

ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
○抜取り検査
●引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき ※3本 ●原則 柱・梁の径毎に3本
○超音波探傷試験(JISZ3062) ●熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ○30箇所
○不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3

溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4

梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5

その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ○①一般 ●②地反力を受ける
●③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長ℓ₁の採用 大梁・小梁 ○D' (梁有効端) ●端部上下筋15d 中央上下筋20d
●min(D', L₂) ●端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1

レディミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
①セメント ○普通ポルトランドセメントJISR5210 ●高炉セメントB種
●低熱ポルトランドセメントJISR5210
②粗骨材 ●砂利 ●砕石 ●高炉セメント骨材 ●人工軽量骨材 ●再生骨材
最大径(mm) ●20 ●25 ●40
③設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
○普通コンクリート
●Fc18 ●Fc21(便所・倉庫棟) ●Fc24 ●Fc27 ●Fc30(EV棟)
●軽量コンクリート(※1種 ●2種 気乾単位容積質量 ※18.5 ●)
●LfFc18 ●LfFc21 ●LfFc24 ●LfFc27 ●LfFc30 ●LfFc

④土間コンクリート ●Fc18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
⑤捨てコンクリート ●Fc18
6)防水層さえコンクリート ●Fc ●Lfc (気乾単位容積質量 ※18.5 ●)
7)かさ上げコンクリート ●Fc ●Lfc (気乾単位容積質量 ※18.5 ●)
⑥-2 混和材 ○減水剤 ●高性能減水剤 ●躯体防水材料 ●膨張材
注1)、混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
⑥-3

箇 所	基礎、基礎梁	一 般		備 考
スラブ	cm 15	18		
水セメント比	%			60以下
単位水量	kg/m ³			185以下
単位セメント量	kg/m ³			270以上

注2)、スラブは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。
⑥-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
①骨材 [●塩分含有量 ●アルカリシリカ反応性] ●行う ●行わない
②フレッシュコンクリート [○スランプ ○空気量] ●行う ●行わない
③躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ●行う ●行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ●行う ※行わない
5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ●行う ※行わない
6)単位水量測定 ●行う ●行わない
⑥-5 調査(補正值は工事費に含む) ※施主と協議の上、決定すること。
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d
●短期(18) ●標準(24) ●長期(30) ●超長期(36)
調査管理強度 F_m=Max(F_c, F_d)+S S=3~6
材齢28日の調査強度F_dは下記の両式を満足するものとする。
F_d≥F_m+1.73σ F_d≥0.85F_m+3σ
⑥-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15℃以上 3 日	17 日	28 日
	5℃以上 5 日	25 日	
	0℃以上 8 日	28 日	
圧縮試験による場合	5N/mm ²	注)0.85Fcまたは12N/mm ² 注)設計基準強度	

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。
6-7 住宅性能表示 劣化等級 ●等級2 ●等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する
6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による

§7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し内 ダイヤ	内 ダイヤ	大梁	アレス	小梁 他
一般構造用圧延鋼材	○SS400 ●				○		○
溶接構造用圧延鋼材	●SM400A ●SM490A ●SM400A ● ●SN400B ●SN490B ●SN400C ○SN490C			○			
一般構造用角形鋼管	●STKR400 ●STKR490						
冷間成形角形鋼管	○BCR295 ● BCP325 ●BCP235 ●BCP325		○				
熱間成形角形鋼管	●SHC400B ●SHC400C ●SHC490B ●SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	●STK400 ●STK490 ●STKN400 ●STKN490						
一般構造用軽量形鋼	●SSC400 ●						○
建築構造用圧延鋼	○SNR400					○	

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使用 箇 所
トルシア形高力ボルト	○S10T 全般
JIS形高力ボルト	○F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	●F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	●S14T 屋内環境

7-3

普通ボルト、アンカーボルト
①材質 ○SS400 ●SS490(M 以上)
●ABR400 ●ABR490 ●ABM400 ●ABM490(ABMはM24以上)
②大臣認定柱継(メーカー仕様による) ○使用する ●使用しない
7-4 頭付きスタッド

径	長 さ(mm)	使用 箇 所
16 φ	●80 ●100 ●120 ●150 ●	
19 φ	●80 ●100 ●120 ●150 ●	
22 φ	●100 ●120 ●150 ● ●	

7-5

溶接材料
①アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
②ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
スカラップ形状 ※ノンスカラップ工法 ○スカラップ工法
⑦-6 継手
⑦-7

	柱	梁
フランジ	●高力ボルト ●現場溶接 ○高力ボルト ●現場溶接	
ウェブ	●高力ボルト ●現場溶接 ○高力ボルト ●現場溶接	

7-8 溶接手法及び管理
①使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
②完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ○行う ●行わない
③本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ○行う ●行わない
但し、代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート (単位 mm)
1)床用 高さ ● 板厚 ●
②合成スラブ用 高さ ○50 板厚 ○1.2
3)型枠用 高さ ● 板厚 ● 形板 タイプ
4)防錆処理 ●プライマー ●亜鉛メッキ ●Z12 ●Z27

7-10 塗装(工場塗 ※2回 ●1回、現場タッチアップ程度とする)
①素地調整 ※クレン ●プラスト
②下塗り用塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
屋外 室内			
○ ○	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	※1種 ※2種 30μm
	水系さび止めペイント	JASS18 M-111	30μm
●	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	●1種 ●2種 40μm
●	有機ジンクリッチプライマー	JISK5562	●2種 15μm
●	構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30μm

3) 溶融亜鉛メッキ ●行う ○行わない
4) 常溫亜鉛メッキ ●行う ○行わない
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ●用いる ○用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ●行う ●行わない
①受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
②第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるQIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
③受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
④外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付録6 鉄骨精度検査基準」の境界許容差による。
⑤超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説 2018」により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
⑥溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
⑦受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a)工場溶接の場合
i.検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii.抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii.大きく30箇所のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30箇所のサンプルを抜取検査する。総計60箇所のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
i.全数検査とする。
⑧検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
⑨ずれ・食違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
⑩国土交通省告示1464号を遵守すること。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	①	R	J	

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック
1)種類 ●A種 ●B種 ●C種
2)厚さ mm ●100 ●120 ●150 ●190

8-2 ALC パネル
1)使用箇所 ●床 ●屋根 ○外壁 ●内壁
2)厚さ mm ●75(80) ○100 ○120(125) ●150 ●175 ○50
3)外壁取り付け構法

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	○ロッキング構法		
横	●アンカー構法		

8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ● ●

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	●ロッキング構法		
横	●スライド構法		

8-4 PCa板
①床及び屋根 ○床 ○屋根
●PCa板単独 厚さ mm ●
●合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

②外壁 厚さ mm ● ●

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fasa-net.jp

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205

FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

2024年2月1日作成

(不許複製)

◆NOTE◆

DATE				
CHECK				
DATE				

一級建築士(大臣)登録229265号 大村 悟子

一級建築士事務所 滋賀県知事登録(第)152号

株式会社 大村 建築 設計 事務所

一級建築士事務所

TEL (0749) 62-2651
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

構造設計仕様書

◆SCALE◆
A1: — A3: —

MANAGER

CHECKED

DRAWN

DRAWN

一級建築士 第 254743 号
構造設計一級建築士 第 2337 号 麻城 健作

S - 1

◆SHEET No◆

鉄 骨 工 作 標 準 図 (1) 2024年度版

1-1
基 本 事 項

1-2
そ の 他

S 1 一般事項

1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

2-1
略 号

S 2 共通事項

○ AB アンカーボルト

○ BPL ベースプレート

○ DFPL ダイアフラム

○ FPL フランジプレート

○ HTB 高力ボルト

○ SPL スプライスプレート

○ WPL ウェブプレート

○ BH 組立てH形鋼

○ CHPL チェッカープレート

○ FB フラットバー

○ GPL ガセットプレート

○ RPL リブプレート

○ TB ターンバックル

○ W-9 溶接記号 (S4 参照)

3-1
高力ボルト

3-2
高力ボルトのピッチ

3-3
形鋼のゲージ

S 3 ボルト接合

ボルトの長さ

ねじの呼び	締付け長さに加える長さ	
	F8T, F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

首下長さ

締付け長さ

座金厚さ

ナット高さ

余長 (ねじ山1~6)

1. 特記以外はすべてS10T (トルシア形高力ボルト、上図) 又はF10Tとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締付け摩擦面を平グラインダ掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは1次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

呼び径

	M 16	M 20	M 22	M 24
孔	18	22	24	26
ピッチ	標準	60	60	70
	最小	40	50	55
はしあき	e	40 (50)	40 (55)	45 (60)
最小縁端距離	せん断線、手動ガス切断線	28	34	38
	圧延線、自動ガス切断線等	22	26	28

() 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

ゲージ

ゲージ	千鳥打ちのピッチ b	
	M16, 20, 22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

A or B

g¹

g²

最大軸径

B

g¹

g²

最大軸径

B

g¹

g²

最大軸径

**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16
60	35	16	125	75	16	65	35	20
65	35	20	150	90	22	70	40	20
70	40	20	175	105	22	75	40	22
75	40	22	200	120	24	80	45	22
80	45	22	250	150	24	90	50	24
90	50	24	*300	150	40	24	100	55
100	55	24	350	140	70	24		
125	50	35	400	140	90	24		
130	50	40	24					
150	55	55	24					
175	60	70	24					
200	60	90	24					

* B = 300 は千鳥打ちとする。
** 印の欄の g¹ 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき
最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4-1
隅 肉 溶 接

4-2
完 全 溶 込 み 溶 接 (突合せ溶接)

4-3
部 分 溶 込 み 溶 接

S 4 溶接接合

t ≤ 16

16 < t ≤ 40

脚長 (S) 0 ≤ ΔS ≤ 0.5S
かつ ΔS ≤ 5
ΔS = S' - S
S = 設計サイズ
S' = 実測サイズ
余盛 0 ≤ Δα ≤ 0.45 かつ Δα ≤ 4

記号 W₁

記号 W₁

断続隅肉溶接の長さ L

L ≥ 10S かつ 40 以上

1) 板厚の異なる場合 (通しダイアフラムは除く)

2.5 以上

a > 10

クレーンガーダの場合は、全て 2 倍以上の勾配をとる。

2) エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
エンドタブの長さ ℓ は 25mm 以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より 5~10mm はなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。

通し形裏当て金

分割形裏当て金

隅肉溶接 S = 4~6mm
1 バス長さ = 40~60mm 程度とする

3) 開先加工 (下図は参考とする。)

a) スクラップ工法

○ スクラップの内弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。γ は 35 程度、γ は 10 以上とする。
なお複合円は滑らかに仕上げること。
○ 完全溶込み溶接部以外のスクラップは γ = 25 程度とする。

b) ノンスクラップ工法

機械加工 + ガス切りタイプ

4) 開先形状

小文字は管理許容差 () は限界許容差を示す ※十分な品質管理を行う

記 号	形 状	適用板厚	寸 法
W ₂	裏当て	6~	アーク手溶接 G 9 + ^{+∞} _{-2 (-0)} R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} α ₁ 35° -2.5° (-5°)
MC-BL-1B GC-BL-1B	25 以上 G 以上		G 7 + ^{+∞} _{-2 (-2)} R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} α ₁ 30° -1° (-2°)
W ₃	裏はつり	6~	G 0 -2.5 (-4) R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} α ₁ 45° -2.5° (-5°)
MC-BL-2 GC-BL-2	G _L		G 0 -2.5 (-4) R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} α ₁ 45° -2.5° (-5°)
W ₄	裏はつり	16~	d ₁ 2/3 (T-R) R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} d ₂ 1/3 (T-R) α ₁ 45° -2.5° (-5°) α ₂ 60° -2.5° (-5°)
MC-BK-2 GC-BK-2	G ₁ g ₂		G 0 -2.5 (-4) R 2 + ⁺² _{-2 (-2)} α ₁ 45° -2.5° (-5°) α ₂ 60° -2.5° (-5°)
W ₅	裏当て	3~6	G T + ^{+∞} _{-2 (-2)} R T + ^{+∞} _{-2 (-2)}
MC-BI-1B GC-BI-1B	FB-4.5×19 G		G T + ^{+∞} _{-2 (-2)} R T + ^{+∞} _{-2 (-2)}

MC … はアーク手溶接 GC … はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

片面溶接 W₆

両面溶接 W₇

片側溶接 W₆

両面溶接 W₇

t

D

t/4 ≤ S ≤ 10

D = (t-2)/2

4-4
フ レ ア 溶 接

4-5
そ の 他

丸鋼等溶接 W₈

軽量形鋼等溶接 W₉

加工工程中及び現場建方後においてもアークストライク、ショートビードをしてはならない。

5-1
継 手 リ ス ト

S 5 継 手

フランジ巾 250 以下

フランジ巾 300

フランジ巾 350, 400

10 e e (ウェブ)

10 e b b b b e

10 e p p p e

フランジ市

ウェブ

ボルト本数表示

10 e p e (ウェブ)

材 種	主 材	高力ボルト径	フランジ	ウェブ	ピッチ
	H-A × B × t ₁ × t ₂ BH-A × B × t ₁ × t ₂		外側添板 2PL- t ₂₁ × a ₁ × ℓ ₁	内側添板 4PL- t ₂₂ × a ₂ × ℓ ₁	ボルト 総 本数
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×
	H- × × ×		× ×	× ×	× ×

1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2. a₂ は原則として梁成の2/3以上を確保すること。

5-2
小 梁 仕 口

ピン 接 合 A タイプ

剛 接 合 B タイプ

A1タイプ

A2タイプ

A3タイプ

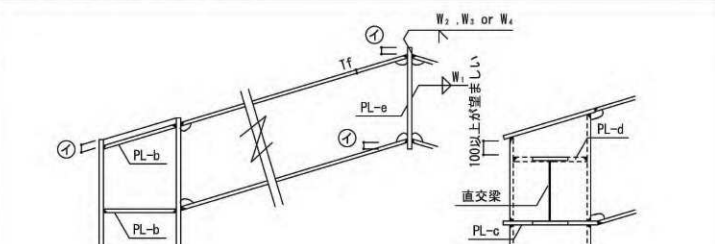
B1タイプ

B2タイプ

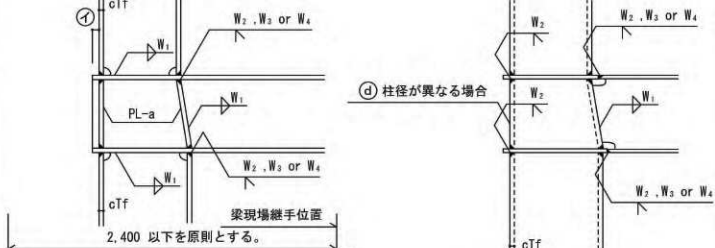
1. GPL, RPLは材種、板厚とも小梁のWPLと同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

6 - 6
そ の 他

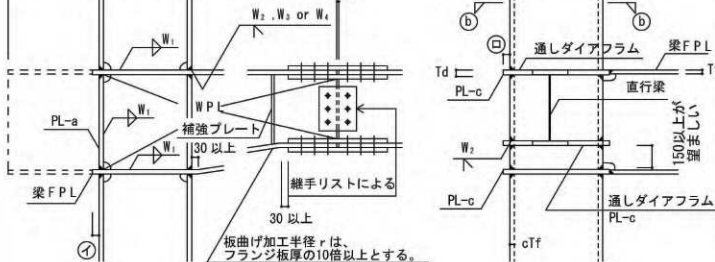
6-1
勾配屋根



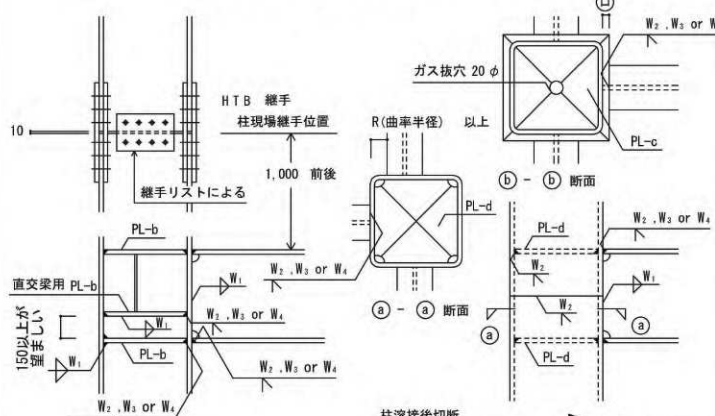
6 - 2
梁 通 し



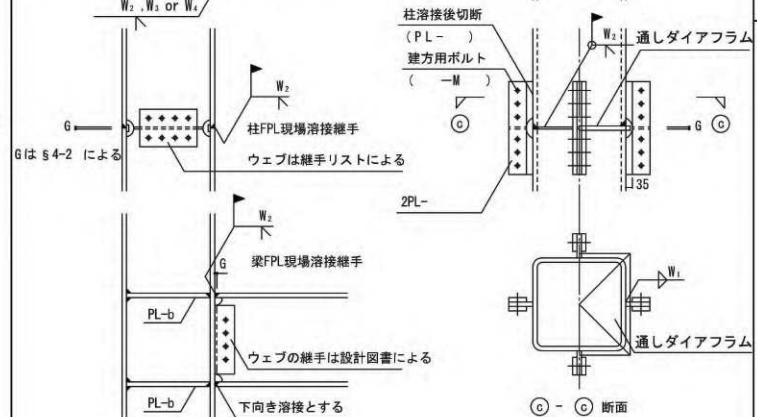
6-3
仕口と継手



6-4
柱 通 し

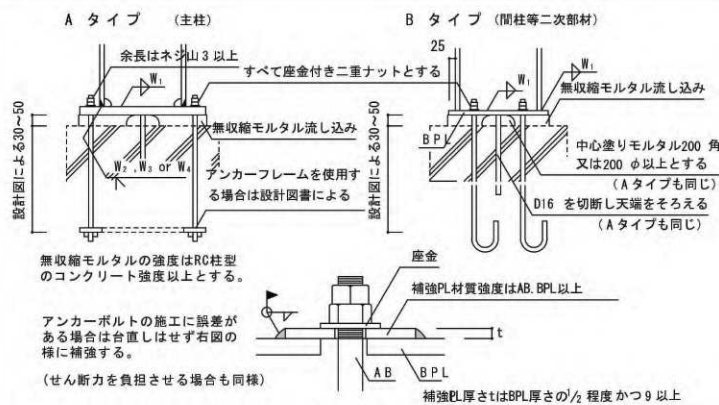


6-5
現場溶接継手



柱が角形鋼管の場合

7-1
一般柱脚

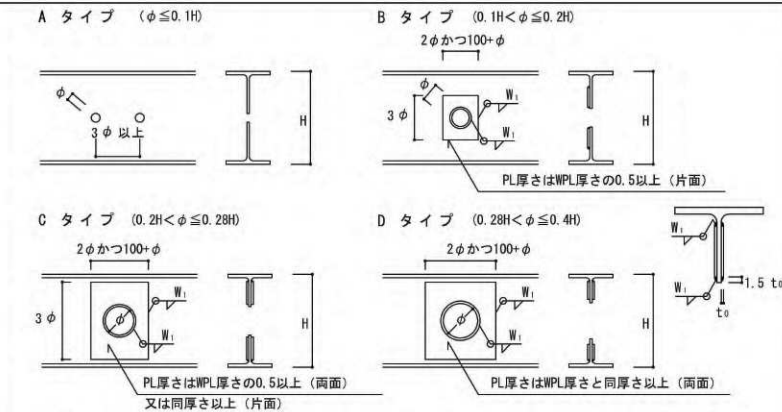


8 - 1
ブレースリスト

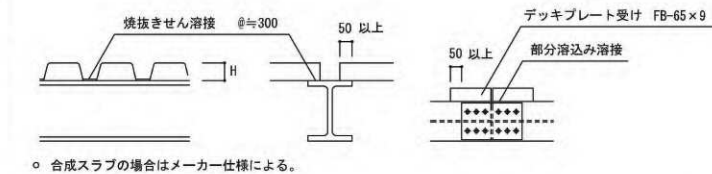


1. GPLの最小幅 l_e が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共 JIS規格適合品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

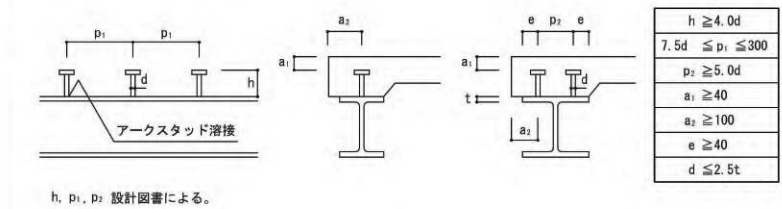
9 - 1
貫通補強



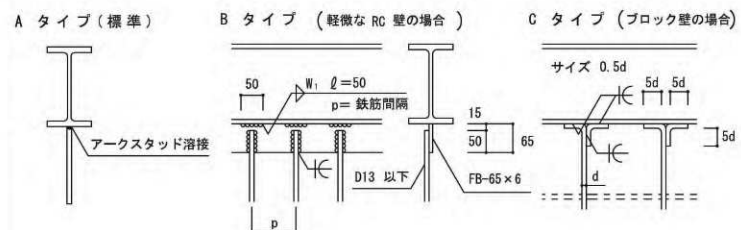
9 - 2
デッキプレート



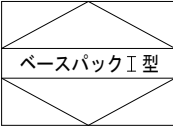
9-3
スタッドジベル



9-4
壁筋の溶接



2024年2月1日作成 (不許複製)



角形鋼管

F値295N/mm²以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースパック柱脚工法設計標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

TEL03 (3624) 5336

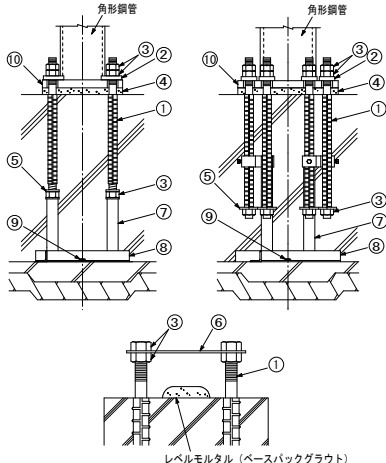
旭化成建材株式会社

TEL03 (3296) 3515

2021年4月作成

1. 工法概要

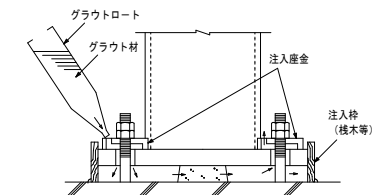
1. 1 構成部材



- ① アンカーボルト
- ② 注入座金
- ③ Mナット
- ④ ベースパックグラウト(グラウト材)
- ⑤ 定着座金
- ⑥ テンプレート
- ⑦ フレームポスト
- ⑧ フレームベース
- ⑨ ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑤～⑥は現場状況により仕様異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要



2. 柱

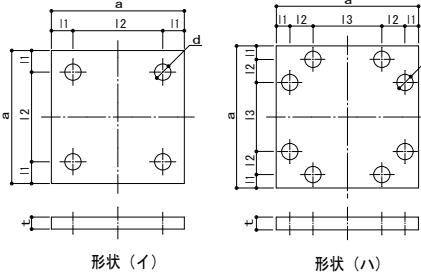
F値(N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	●
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

●材質

SN490B 【JIS G 3136】



3. 3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3. 4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び	A	B	t	d	材質
M27	55	9	28		
M30	55	9	31		
M33	60	9	34		SS400
M36	65	12	37		
M39	80	12	40		

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

呼び	A	B	t	d	材質
M27	55	168	9	32	
M30	60	173	9	35	SS400
M36	65	178	9	38	

3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び	異形部 呼び名	L (注1)	X	b (注1)	基準強度 (N/mm ²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

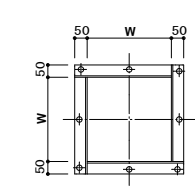
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

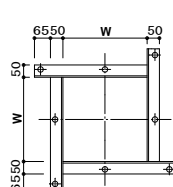
呼び	異形部 呼び名	L	X	基準強度 (N/mm ²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3. 6 フレームベース

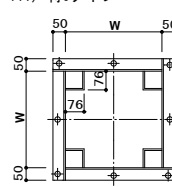
i) Aタイプ



ii) Cタイプ



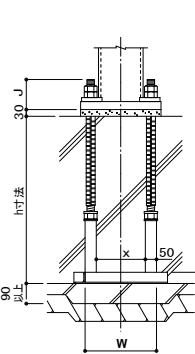
iii) 特Cタイプ



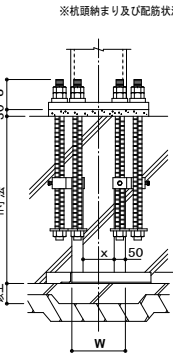
3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

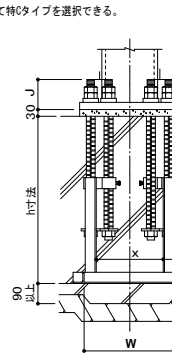
< Aタイプ >



< Cタイプ ※ >



< 特Cタイプ >

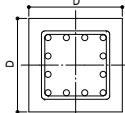


単位 mm

4. コンクリート柱型

4. 1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

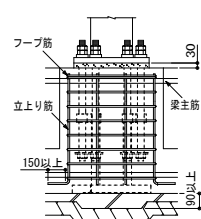


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4. 2 配筋

配筋仕様は下表による。

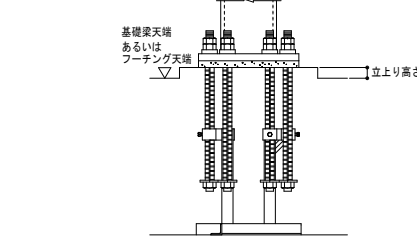


※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4. 4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

- 採用
- ☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり「柱型寸法最大・最小値一覧」による
 - ☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
 - ☐ 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作 (溶接)


■組立

●ベースプレートの中心線(が+線)に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法 (完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2007年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T (mm)	ルート間隔G (mm)	ルート面R (mm)	開先角度α (°)	溶接姿勢			
	縦横アーク溶接	6~	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2, 5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		
		6~	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 45	-2, 5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1 : 35		

許容差 : 記号+∞は制限無しを示す。
・2枚重きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段・管理許容差、下段括弧内: 境界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱とする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm)	予熱なし	予熱なし	予熱なし
低水素系電極アーク溶接	SN490B	t ≤ 32	50℃	50℃	50℃
0.02ガスシールドアーク溶接	SN490B	t ≤ 32	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法 : 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理 : 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

6. 工事場施工

6. 1 基礎工事

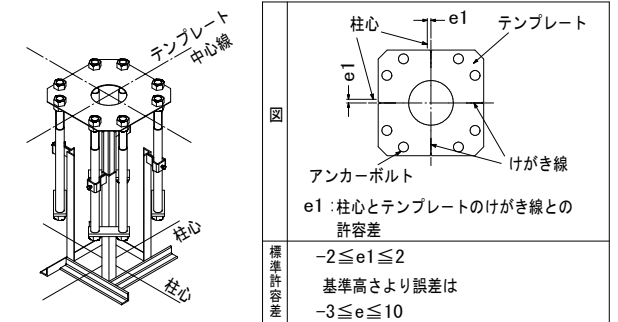
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



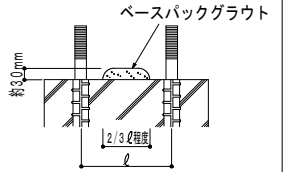
6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

◆NOTE◆

DATE
CHECK
DATE

一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子

株式会社 大村建築設計事務所

TEL (0749) 62-2651
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

ベースパック柱脚工法設計標準図

◆SCALE◆

A1: — A3: —

MANAGER

CHECKED

DRAWN

DRAWN

S-7

◆SHEET No◆

ウェブボルト配置



タイプ9

 l_2

) 20

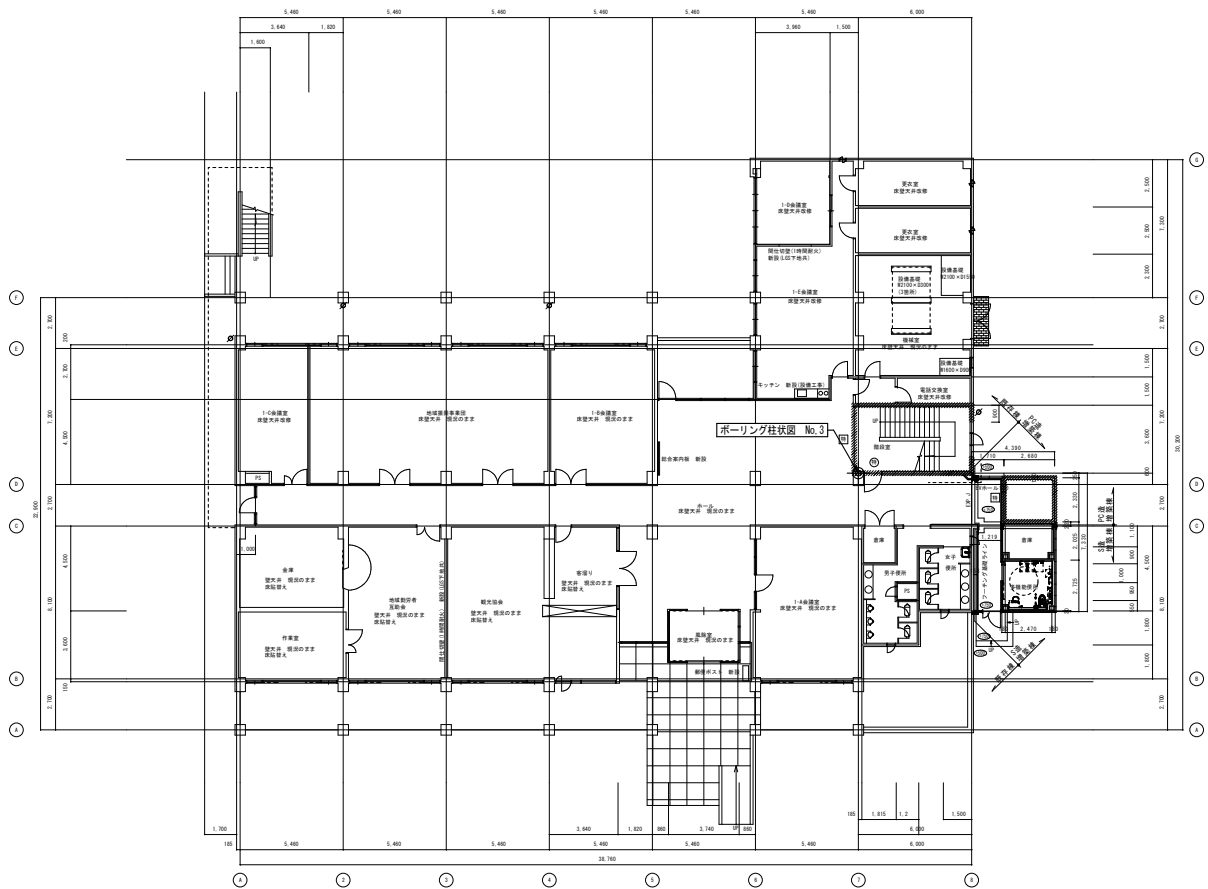
A schematic diagram of a parallel circuit. A horizontal wire at the top is connected to a vertical wire on the left. This vertical wire splits into two horizontal branches. Each branch contains a light bulb symbol (a circle with a cross inside). The two branches rejoin at a vertical wire on the right, which then connects back to the top horizontal wire.

) 20

タイプ5

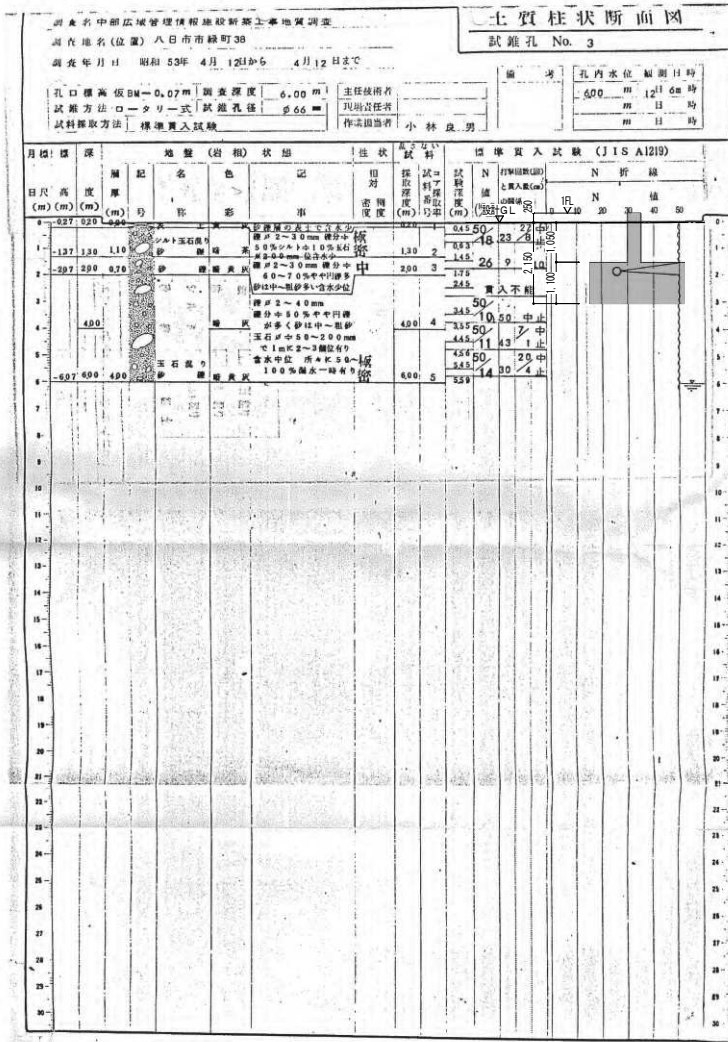
1	本数	
---	----	--

2024年2月1日作成 (不許複製)



ボーリング調査位置図

※ 設計GL= BM-0.07 (No. 3孔口標高±0)



ボーリング柱状図 No. 3

◆NOTE◆

DATE	-	-	-	-	-
CHECK	-	-	-	-	-
DATE	-	-	-	-	-

一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(第)152号

株式会社 大村 建築 設計 事務所
一級建築士事務所
TEL (0749)62-2651
FAX (0749)65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

ボーリング調査位置図

ボーリング柱状図

◆SCALE◆

A1: — A3: —

A1: — A3: —

MANAGER

CHECKED

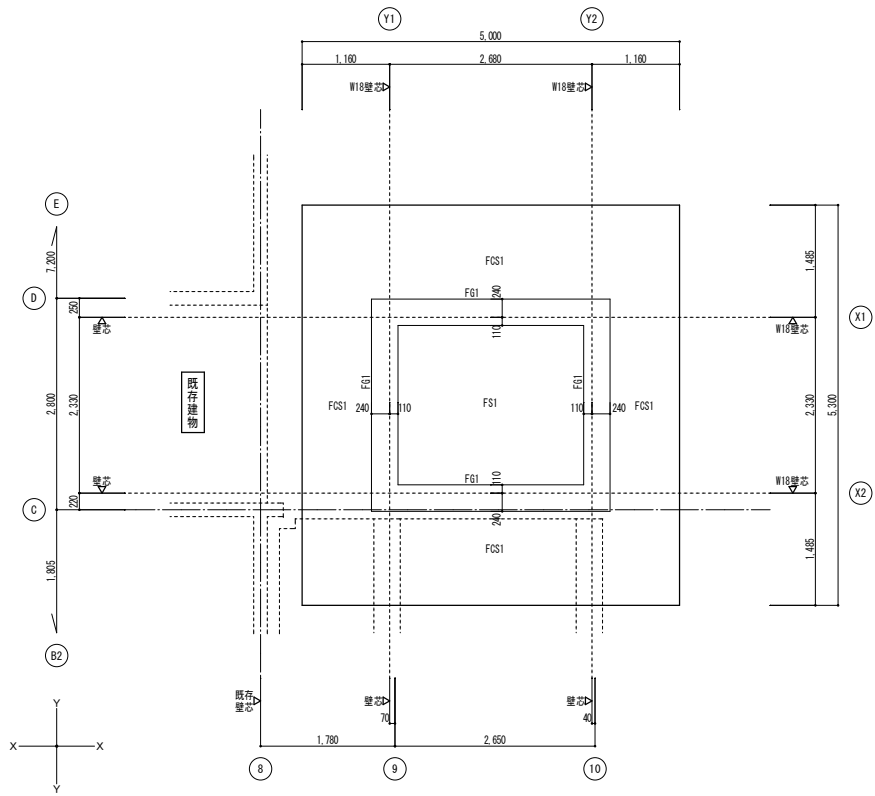
DRAWN

DRAWN

S-9

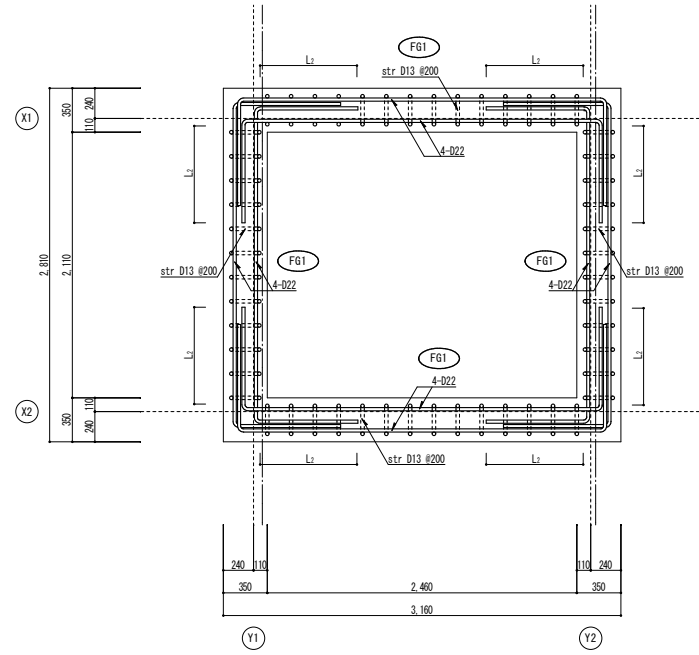
◆SHEET No◆

一級建築士 第 254743 号 麻穂 健作
構造設計一級建築士 第 2337 号

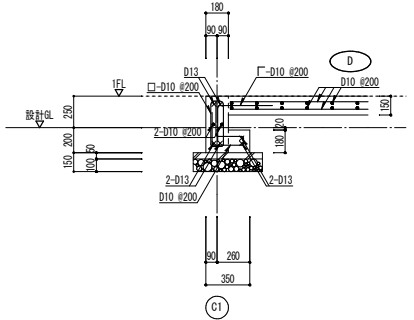


基礎伏図 1/ 50

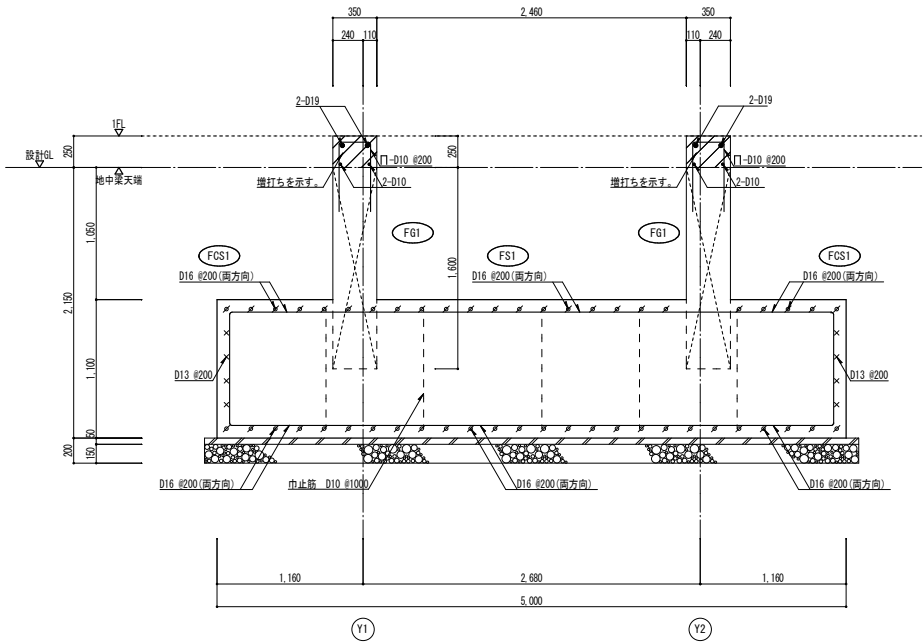
※ 設計地耐力 長期 150kN/m² 短期 300kN/m²
・特記無き限り 地中梁天端は、GL ± 0 とする。
・特記無き限り 基礎スラブ天端は、GL - 1,050 とする。



地中梁配筋詳細図 1/ 30




土間配筋詳細図 1/ 30



FS1・FCS1断面配筋図 1/30

地中梁リスト 1/30

※ 幅止め筋及び吊・受筋は、D10@1000 以下とする。

階	符 号	FG1
位 置	全断面	
GL ± 0		
断 面		
B x D	350x1600	
上 端 筋	4-D22	
下 端 筋	4-D22	
腹 筋	8-D13	
スターラップ	□-D13 @200	

床版リスト

符 号	厚 み	位 置	短辺方向	長辺方向	備 考
FS1	1100	上 端 筋	D16 @200	D16 @200	モチアミ
		下 端 筋	D16 @200	D16 @200	
FCS1	1100	上 端 筋	D16 @200	D16 @200	片持ちスラブ
		下 端 筋	D16 @200	D16 @200	

使用材料

・コンクリート : Fc30 (N/mm²) <基礎・地中梁・柱型>
: Fc18 (N/mm²) <土間・捨コンクリート>
・鉄 筋 : SD295 <D16以下> 継手は鋼ね継手とする。
: SD345 <D19以上> 継手はガス圧接継手とする。

◆NOTE◆

DATE	-	-	-	-	-
CHECK	-	-	-	-	-
DATE	-	-	-	-	-

一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(第)152号

株式会社 大村 建築 設計 事務所
一級建築士事務所
TEL (0749)62-2651
FAX (0749)65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

【EV棟】 基礎伏図
RC部材リスト・断面配筋詳細図

◆SCALE◆

A1:1/ 50 A3:1/100
A1:1/ 30 A3:1/ 60

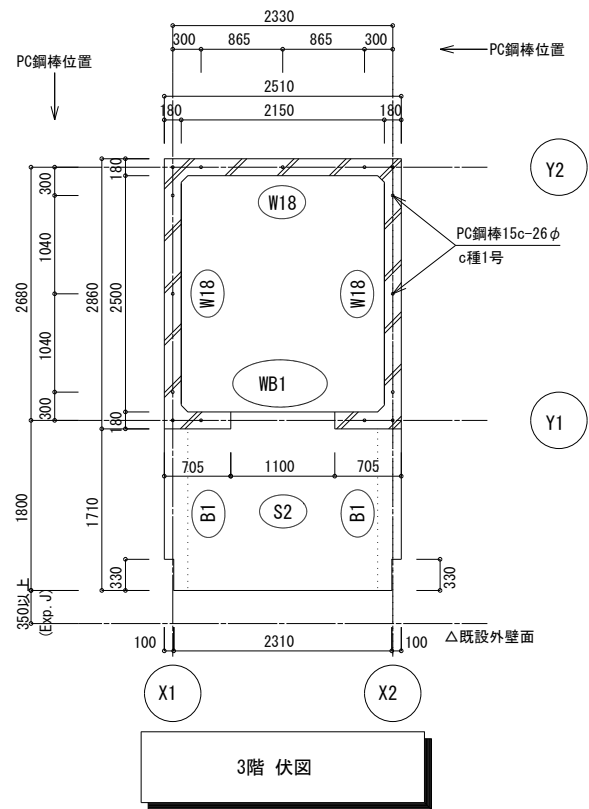
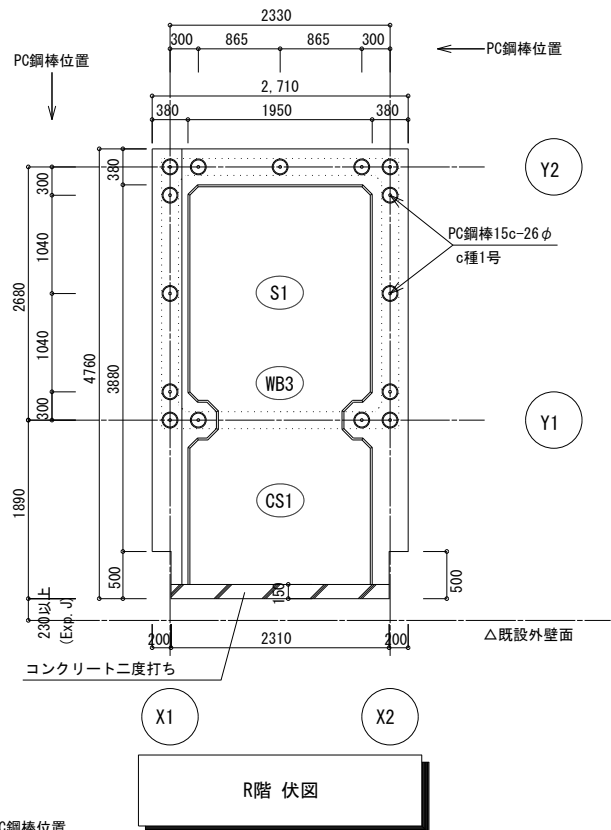
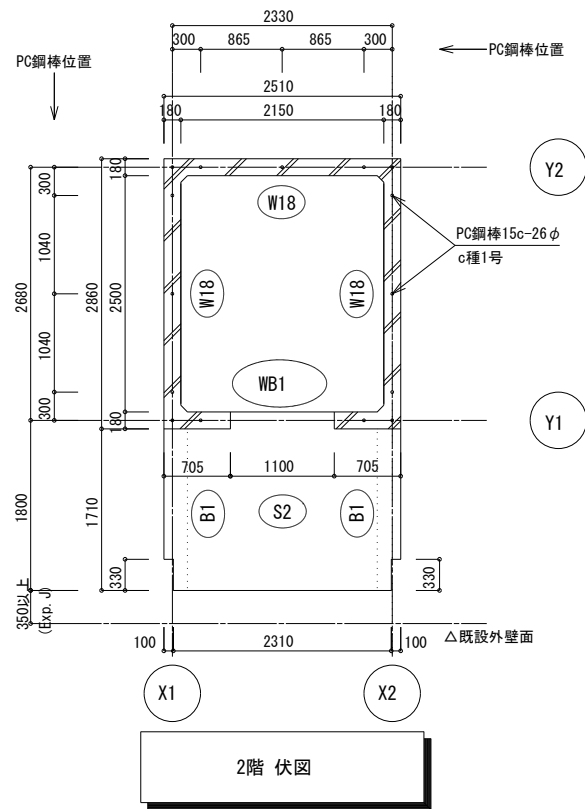
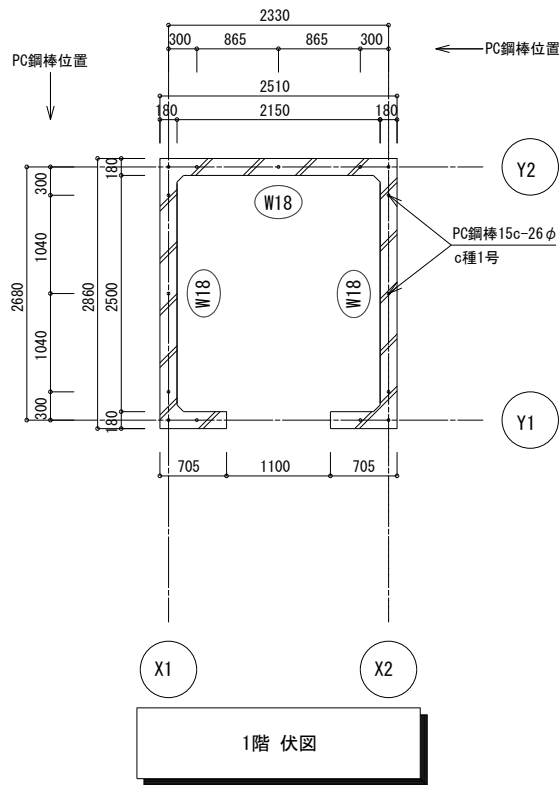
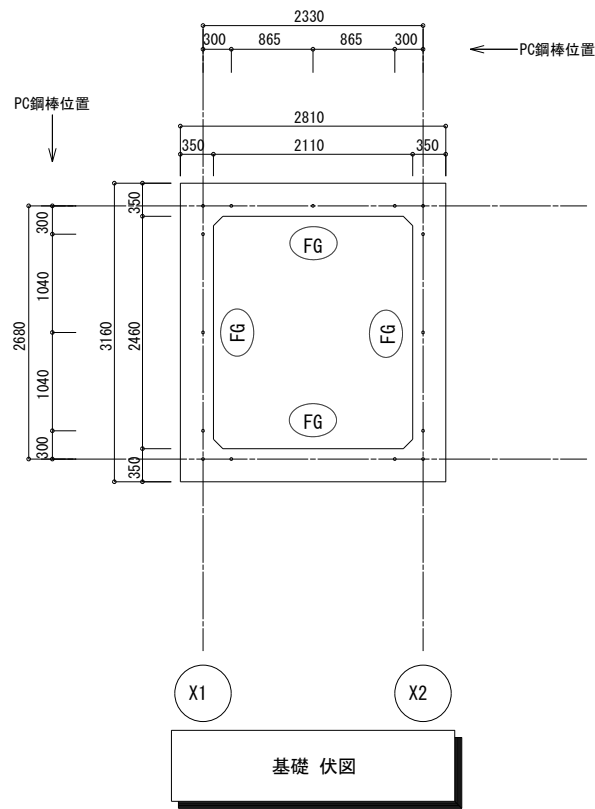
MANAGER CHECKED DRAWN

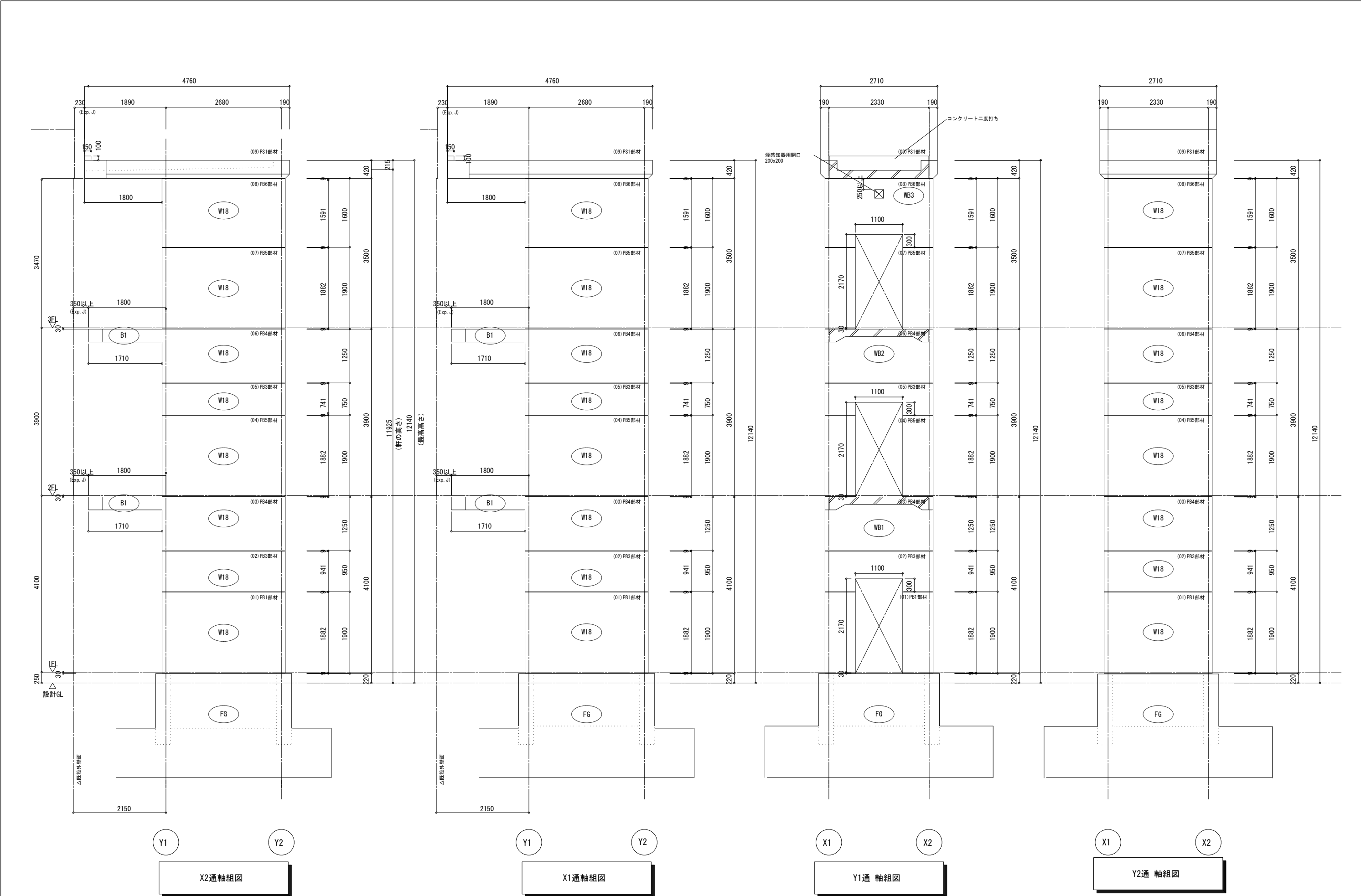
DRAWN

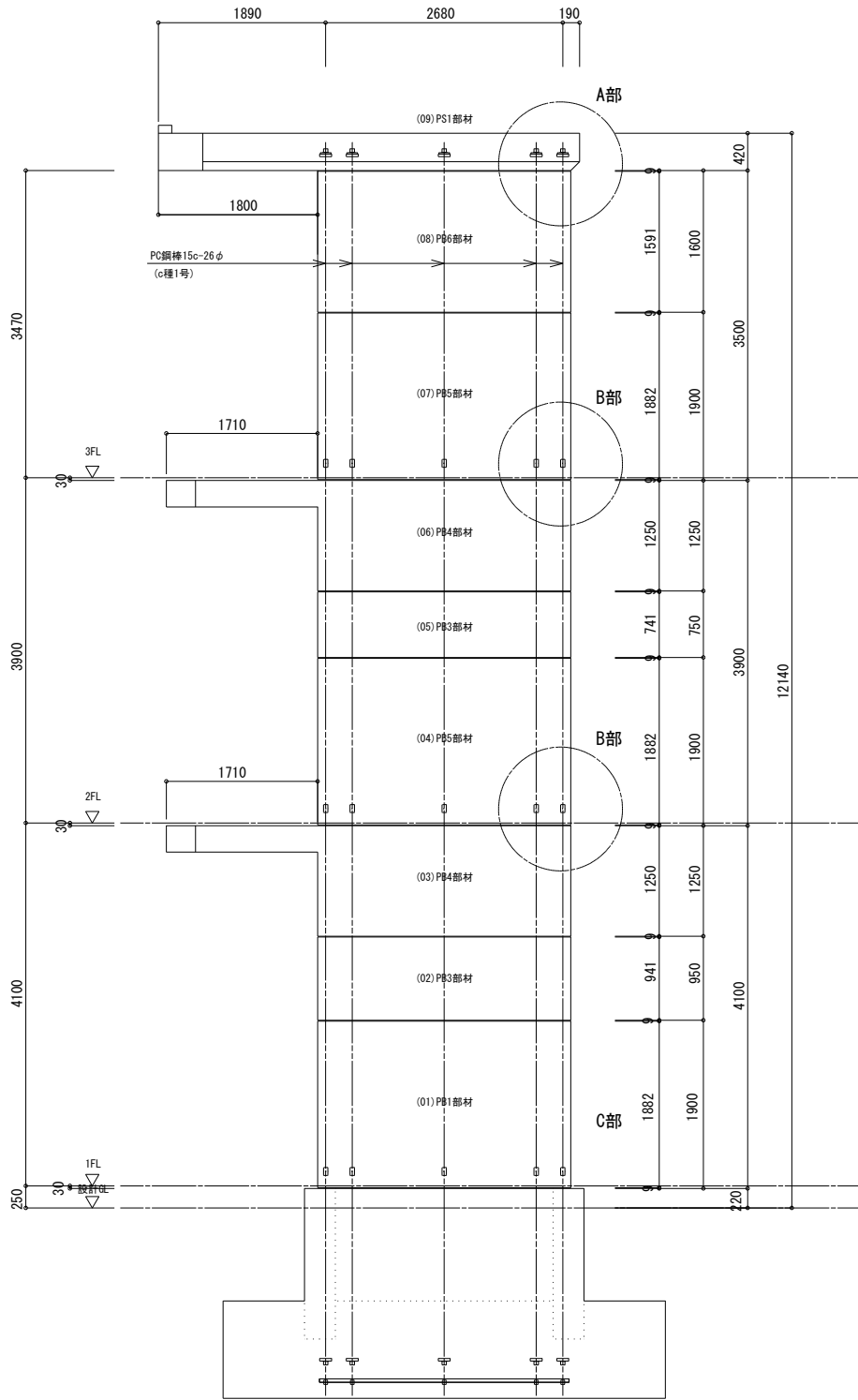
一級建築士 第 254743 号 麻穂 健作
構造設計一級建築士 第 2337 号

S-10

◆SHEET No◆

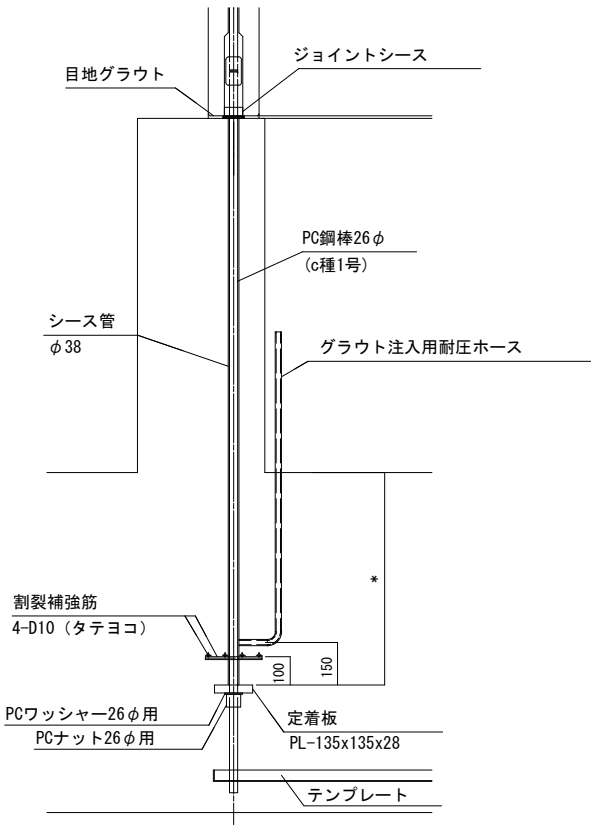






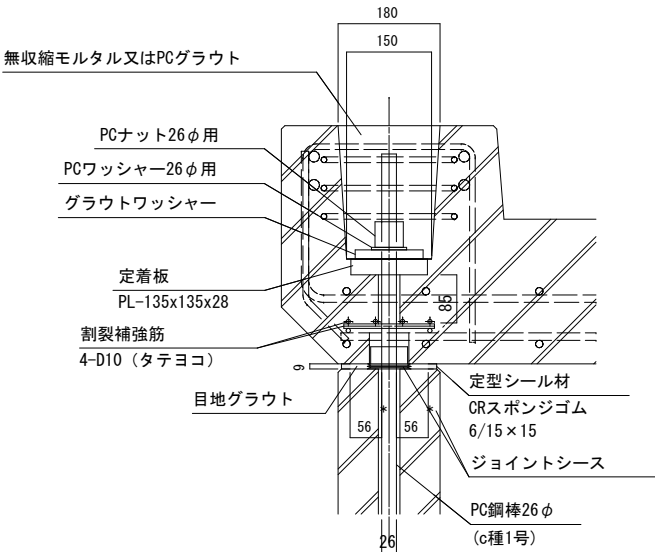
Y1 Y2

X1通(X2通) 軸組図
縮尺 1:40



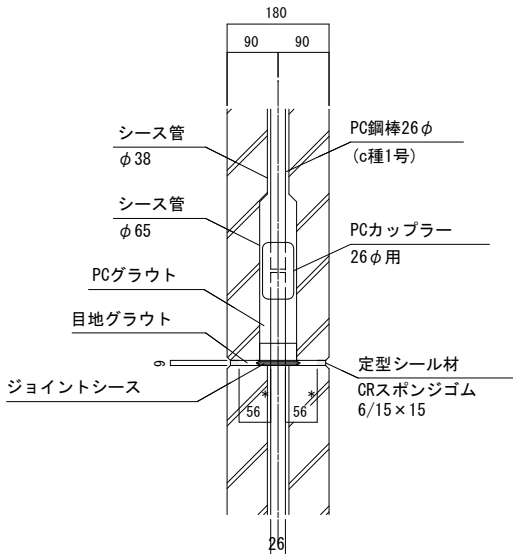
PC鋼棒定着部詳細図 (C部)
縮尺 1:20

* 定着板位置はスラブ上面より300mm以上とし、基礎配筋を考慮して定める。



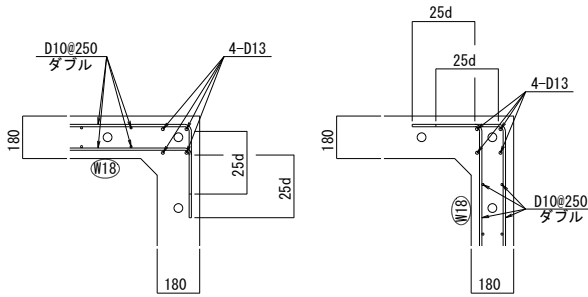
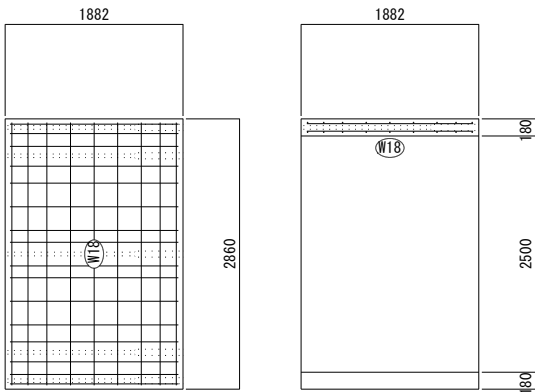
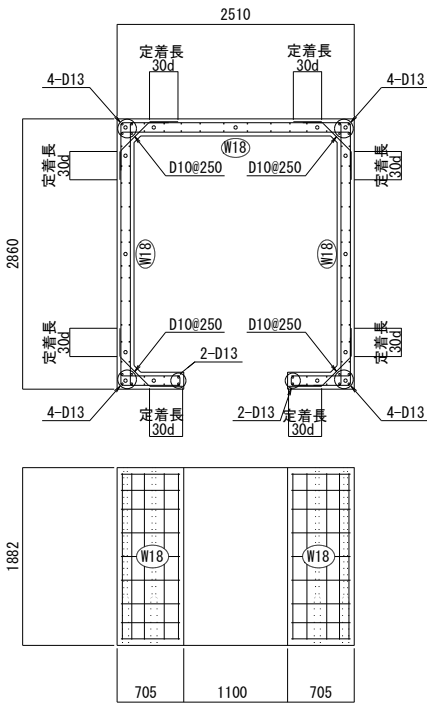
PC鋼棒定着部詳細図 (A部)
縮尺 1:10

* 昭和58年告示第1320号第12の緩和規定値30mmに施工誤差5mmを加えた値35mmを満たす。



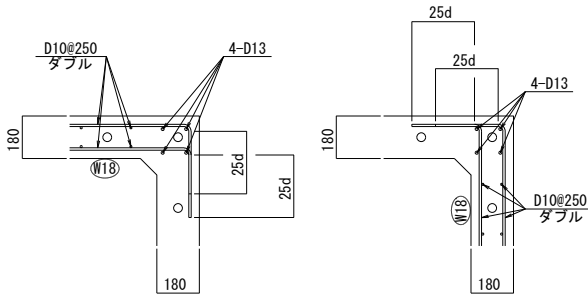
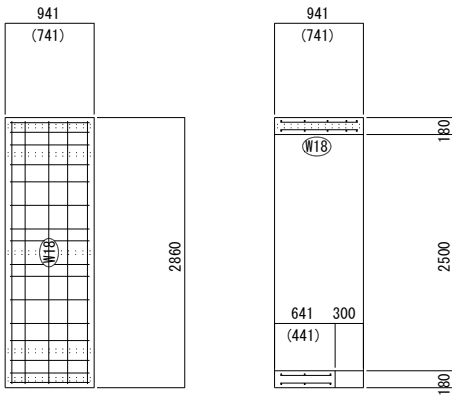
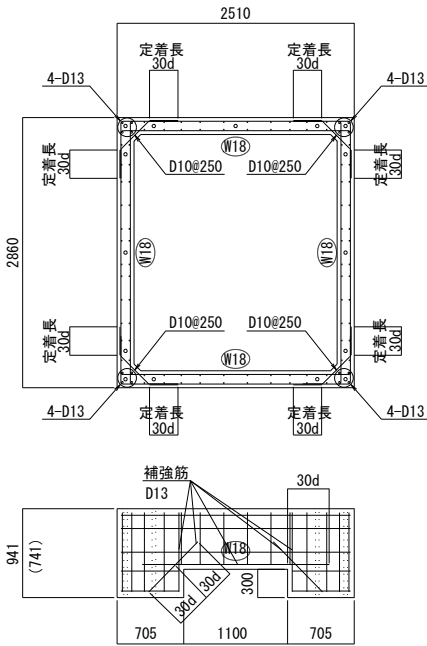
PC鋼棒継手部詳細図 (B部)
縮尺 1:10

* 昭和58年告示第1320号第12の緩和規定値30mmに施工誤差5mmを加えた値35mmを満たす。



W18横筋定着詳細図

(1) PB1, (4) (7) PB5部材配筋図



W18横筋定着詳細図

()内の数値は (5) PB3部材を示す。

(2) (5) PB3部材配筋図

◆NOTE◆

DATE				
CHECK				
DATE				

一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(第)152号

株式会社 大村建築設計事務所
一級建築士事務所
TEL (0749) 62-2651
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

EVシャフト PCa部材配筋図1

◆SCALE◆

A1:1/40 A3:1/80

MANAGER

CHECKED

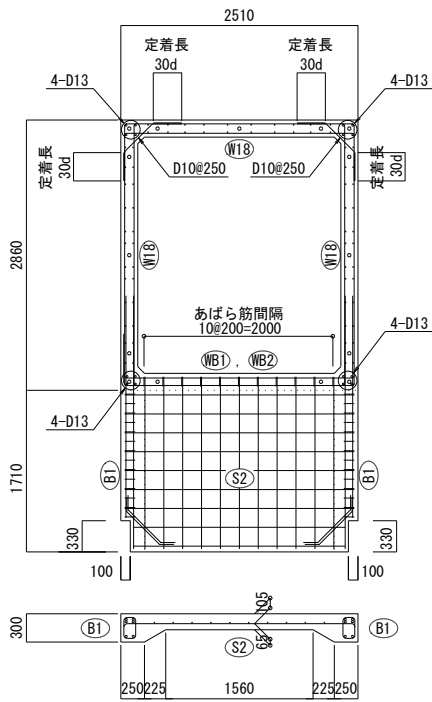
DRAWN

DRAWN

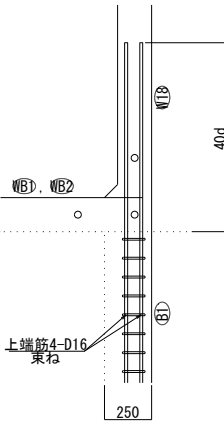
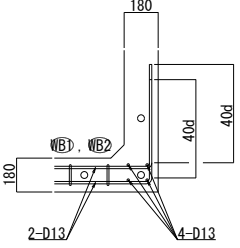
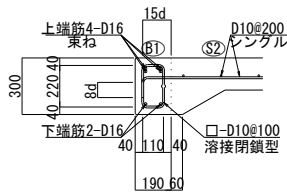
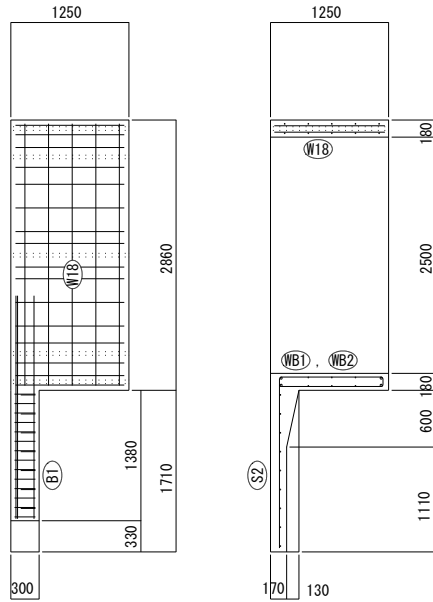
一級建築士 第 254743 号 麻植 健作
構造設計一級建築士 第 2337 号

S-14

◆SHEET No◆



(3) (6) PB4部材配筋図



梁リスト

符 号	使 用 部 位	幅 × せい	配 筋	
			上端筋	下端筋
(B1)	接続通路 (各階共通)	190×300	4-D16	2-D16
(WB1)	EV乗降用開口上部 (1階)	180×1250	2-D13	2-D13
(WB2)	EV乗降用開口上部 (2階)	180×1250	2-D13	2-D13
(WB3)	EV乗降用開口上部 (3階)	180×1291	2-D13	2-D13

※WB1～WB3のあばら筋は溶接閉鎖鉄筋D10とし、BCJ評定等評価を受けた工法を用いる。

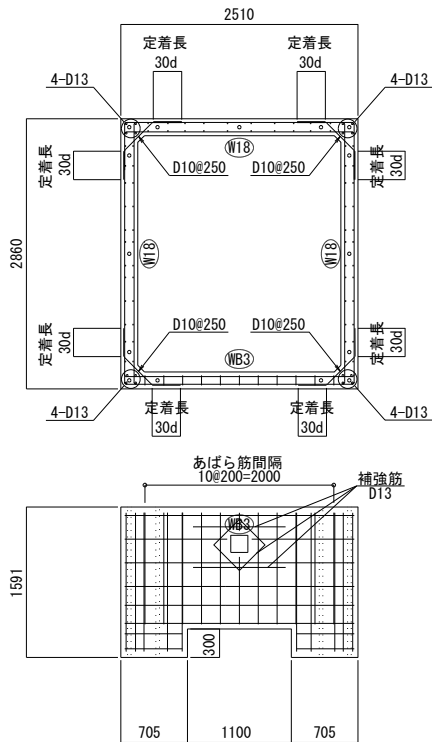
スラブリスト

符 号	使 用 部 位	厚 さ	配 筋	
			X方向	Y方向
(S1)	屋 根 (たて穴上部)	160以上	D13@200	D16@200
(CS1)	屋 根 (接続通路上部)	160以上	D13@200	D16@200
(S2)	接続通路 (各階共通)	170	D10@200	D10@200

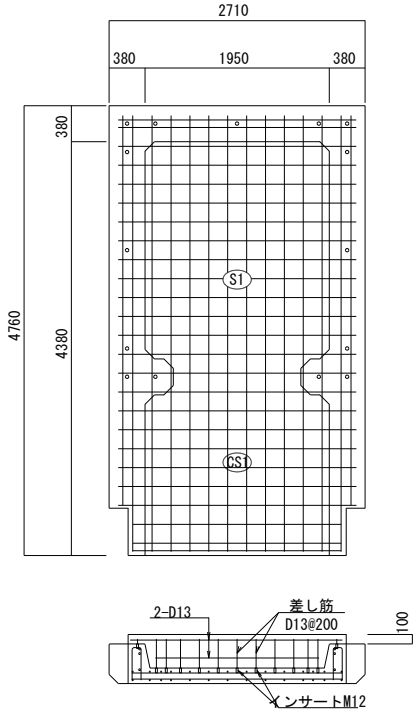
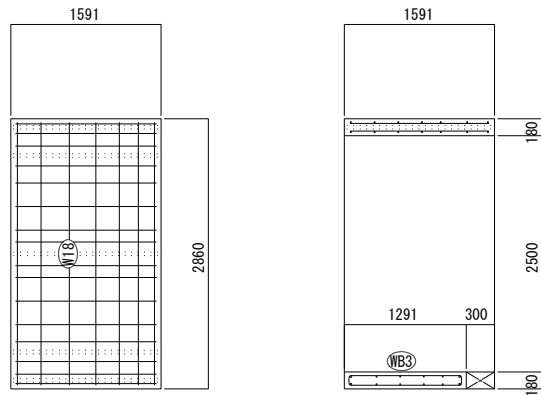
※X方向とは、EV乗降方向と直交する方向、Y方向はEV乗降方向を言う。

耐力壁リスト

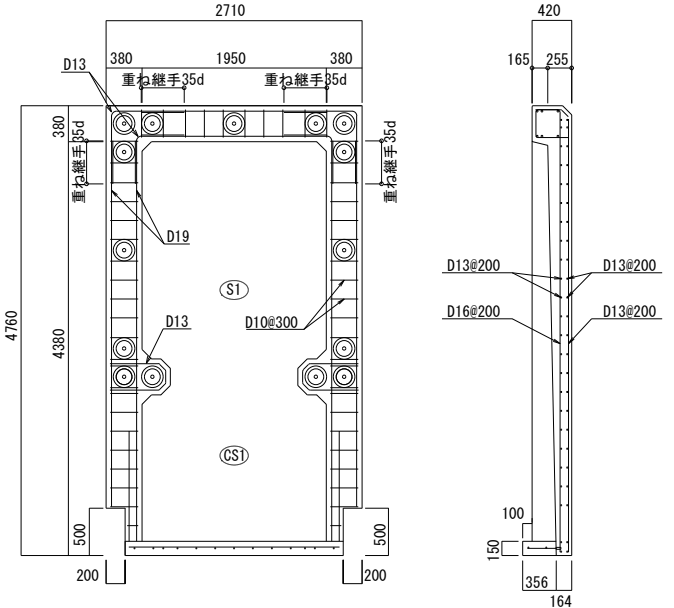
符 号	使 用 部 位	厚 さ	配 筋	
			タテ筋	ヨコ筋
(W18)	各 階 壁	180	D10@250	D10@250



(8) PB6部材配筋図



(9) PS1部材配筋図



PCa部材使用材料

・コンクリート $F_c = 40 \text{ N/mm}^2$ 普通コンクリート
スラブ 21cm以下 (スラップフローの場合、50cm以下)
・鉄筋 SD295 (D10～D16)
SD345 (D19)

◆NOTE◆

DATE				
CHECK				
DATE				

一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子
一級建築士事務所 滋賀県知事登録(第)152号

株式会社 大村建築設計事務所
一級建築士事務所
TEL (0749) 62-2651
FAX (0749) 65-0351

◆TITLE◆

旧農業管理センター改修工事(建築工事)

◆SHEET TITLE◆

EVシャフト PCa部材配筋図2

◆SCALE◆

A1:1/40 A3:1/80

MANAGER CHECKED DRAWN

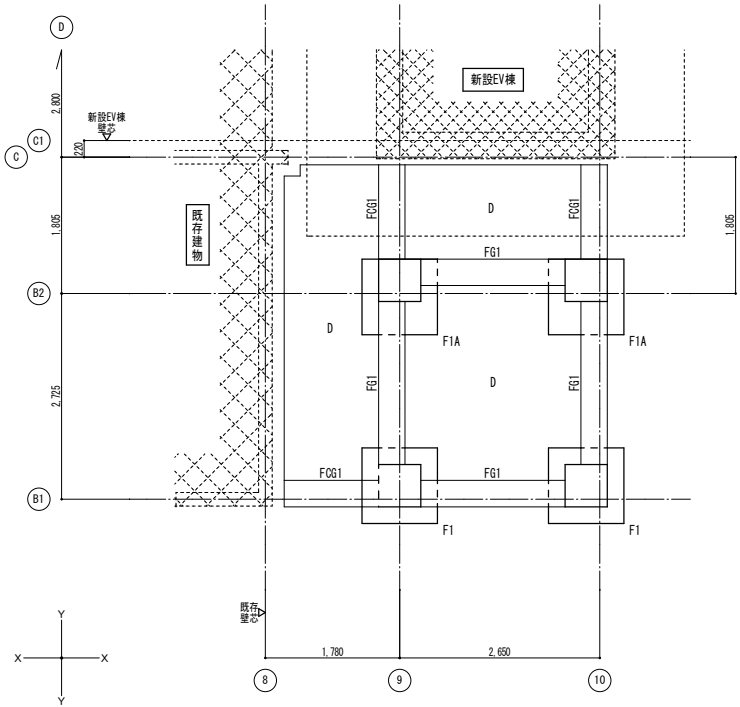
DRAWN

一級建築士 第 254743 号 麻植 健作
構造設計一級建築士 第 2337 号

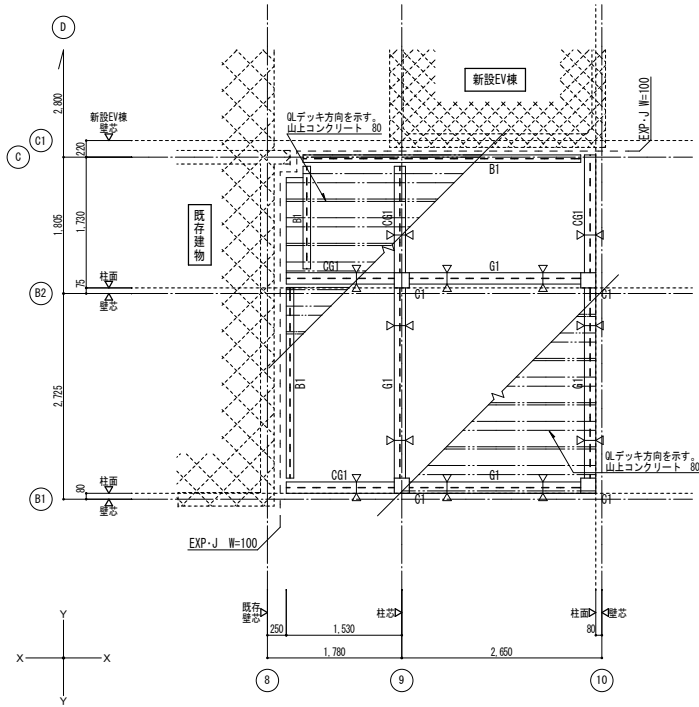
S-15

◆SHEET No◆

使用材料		
・コンクリート	: Fc 21 (N/mm ²)	<基礎・地中梁・柱型>
	: Fc 18 (N/mm ²)	<土間・階コンクリート>
・鉄筋	: SD295 <D16以下>	継手は重ね継手とする。
	: SD345 <D19以上>	継手はガス圧接継手とする。
・鉄骨	: BCR295	<柱>
	: SS400	<大梁・小梁・間柱>
	: SN490C	<通しダイヤフラム>
	: SSC400	<軽量型鋼>
・ボルト	: H.T.B S10T	<特種高力ボルトトルシア型>

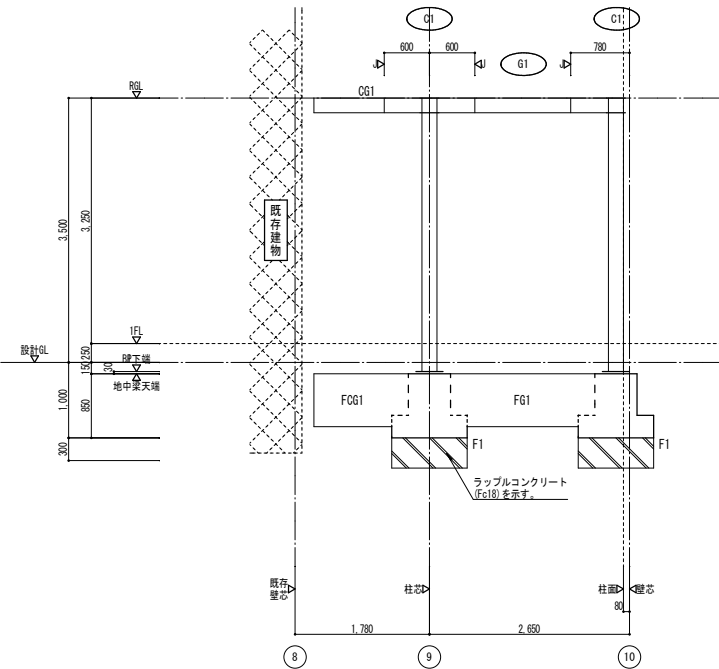


基礎伏図 1/ 50

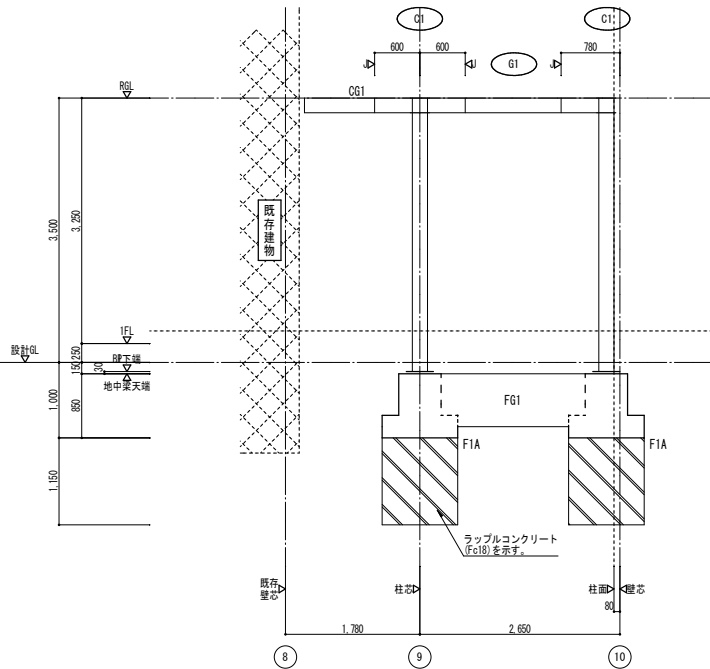


1階柱R階梁伏図 1/ 50

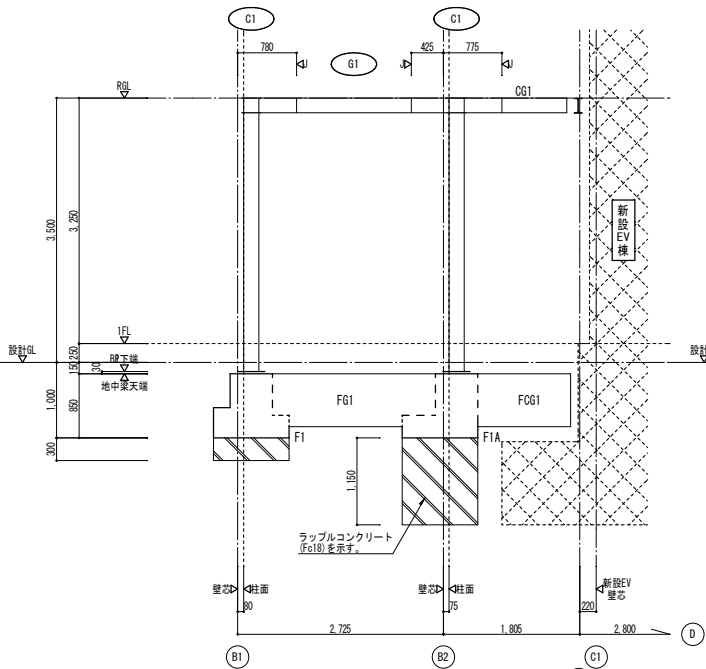
伏図共通事項・凡例	
・本図面は見上り図とする。	・柱→梁継合を示す。
・特記無き小梁・間柱配置は均等割付とする。	・柱→梁ピン継合を示す。
※梁及(柱)ジョイント位置は、現場状況、搬入条件等考慮の上、	・梁→梁ピン継合を示す。
原寸図・施工図作成時に調整し、係員承認後最終決定とする。	・梁→梁継合を示す。
・○●: 水平プレス1→M16を示す。(T付・JIS規格品)	



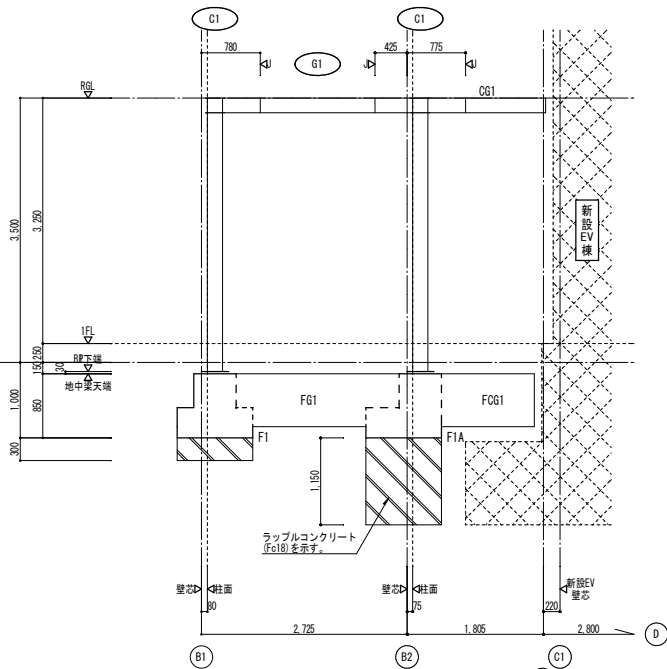
B1通 軸組図 1/ 50



B3通 軸組図 1/ 50



9通 軸組図 1/ 50



10通 軸組図 1/ 50

軸組図共通事項・凡例	
・△J: ジョイント位置を示す。	
※梁ジョイント位置は、現場状況、搬入条件等考慮の上、	
原寸図・施工図作成時に調整し、係員承認後最終決定とする。	
※開口について、開口位置として外壁荷重を入力している為	
開口寸法に変更が生じて影響は無い。	
よって、開口位置・サイズの明記はしない。	

◆NOTE◆					一級建築士(大匠)登録229265号 大村 悟子	株式会社 大村 建築 設計 事務所	◆TITLE◆	旧農業管理センター改修工事(建築工事)	◆SHEET TITLE◆	◆SCALE◆	MANAGER	CHECKED	DRAWN	DRAWN	S-16	
	DATE									【便所・倉庫棟】基礎伏図・1階柱R階床梁伏図	A1:1/ 50 A3:1/100					
	CHECK															
	DATE															
					一級建築士事務所 滋賀県知事登録(h)152号	一級建築士事務所	TEL (0749)62-2651		軸組図	A1:1/ 50 A3:1/100					◆SHEET No◆	
							FAX (0749)65-0351									

